



国立大学法人

三重大学概要

2019



MIE UNIVERSITY

目次

● 理念	3
● 三重大学を創る6つのビジョン	4
● 三重大学を数字で見る	5
● 運営組織	7
● 組織図	8
● 沿革	9
● 役職員	11
● 学部・大学院（専攻・講座）等	13
● 教育研究施設	16
● 教育	17
● 研究	19
● 社会連携・地域貢献	20
● 国際交流	24
● 附属図書館	26
● 情報基盤	27
● 環境	28
● 医学部附属病院	30

《資料編》

● 職員数	32
● 学生定員及び現員	33
● 教育学部附属学校の定員等	33
● 奨学生数	34
● 令和元年度入学志願者数及び入学者数	35
● 都道府県別 入学志願者及び入学状況（学部）	35
● 平成30年度 卒業生数・修了者数・学位授与数	36
● 平成30年度就職状況	37
● 産業別就職状況（学部）・ 地域別就職状況（学部）	37
● 都道府県別就職状況（学部）	38
● 外国人留学生数（学部・研究科等別）	39
● 平成30年度 国際交流事業一覧（経費助成対象）	39
● 国際交流	40
● 附属図書館・附属病院	41
● 令和元年度予算	42
● 平成30年度科学研究費助成事業及び 民間等との共同研究等受入れ状況	42
● 厚生保健施設等	43
● 土地・建物	43
● 地域との相互友好協力に関する協定等	44
● 公開講座等	44
● 三重大学地域貢献活動支援	45
● 三重大学リサーチセンター	46
● 部局等配置図	47
● 位置図	49
● 本学への交通案内	49
● 部局等所在地	50



三重大学概略

(令和元年5月1日現在)

■ 役員	8人	■ 収入・支出予算	45,840百万円 ※令和元年度
■ 教員	770人	■ 土地面積	5,511,692㎡
■ 職員	1,216人	■ 建物面積	321,943㎡
■ 学部学生	6,028人	■ 蔵書数	949,533冊 ※平成31年3月31日現在
■ 大学院生	1,111人		
■ 留学生数	291人		
■ 海外大学間協定数	24カ国・地域、63大学・機関		
■ 海外大学学部間協定数	26カ国、53大学・機関		

令和元年度学年暦

■ 学年開始	4/1	■ 後期開始	10/1
■ 春季休業	4/1~4/9	■ 冬季休業	12/24~1/5
■ 入学式	4/8	■ 学位記授与式	3/25
■ 三重大学記念日	5/31	■ 後期終了・学年終了	3/31
■ 夏季休業	8/9~9/30		
■ 前期終了	9/30		

三重大学は、伊勢湾の海、鈴鹿山脈・布引山地の樹々の緑、白い雲が浮かぶ大空に囲まれた美しい自然環境の中にあります。この素晴らしい自然に恵まれたキャンパスで、社会のリーダーとなる逞しい人材の育成、独創的で自由な発想に基づく高度な専門研究が活発に行われています。

現在の日本社会では少子高齢化、人口減少、グローバル化が凄まじいスピードで進みつつあり、都市部と地方との格差の広がり、エネルギー・環境問題の深刻化、景気・経済の不透明感など、多くの課題が指摘されています。このような困難な時代にこそ、「知の拠点」としての大きな期待が大学には寄せられています。三重大学は、その教育・研究成果を広く社会へと発信し、社会の発展・活性化のために精一杯の努力をしていきます。

学長 駒田 美弘

基本理念

三重大学は、総合大学として、教育・研究の実績と伝統を踏まえ、「人類福祉の増進」「自然の中での人類の共生」「地域社会の発展」に貢献できる「人材の育成と研究の創成」を目指し、学術文化の受発信拠点となるべく、切磋琢磨する。

三重の力を世界へ

地域に根ざし、世界に誇れる
独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。
～人と自然の調和・共生の中で～



この学章の様式は、文様として人生の実りを表す稲穂と、三重大学の理念である三翠（御空、波、森）を表すための浪輪（ROURIN）文様をアレンジした形態の二重リング構造。

二つの文様を絡め二重リング構造としたのは、大学の理念と卒業生の人生の実りが永きに渡って良好な関係を持ち続けるようにとの願いを込めたもの。

また、紋章は通常左右対称形が多いが、三重大学の自由で進取な校風を表す為に敢えて左右非対称形とした。「SINCE1874」は三重大学の前身である師範学校の創立年であり、現状の5学部の前身中最も古いものである。

安心感のある運営と改革

- **学長のリーダーシップ**
第3期中期目標に定められた“持続的な競争力と高い付加価値を生み出す大学の構築”と教職員の生活を守る大学運営に、リーダーシップを発揮します。
- **分析企画力の向上**
IR（機関調査）機能を強化し、適切な業務分析に基づく透明性のある大学改革を前進させます。
- **財務基盤の強化**
附属病院を効率的、安定的に経営し、大学の財務基盤を強化します。

社会の未来を創る高等教育

- **大学の役割の明確化**
地域圏唯一の国立大学法人としての役割を明確化し、三重大学の強みを活かした教育研究活動を実践します。
- **リーダーの育成**
本学の教育目標に掲げる「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」を発揮し、社会を牽引する自立したリーダーを育てます。
- **高度専門職業人の養成**
教養教育の充実とともに学部専門教育、大学院教育の進展を図り、高い教養を持って社会で活躍する高度専門職業人を養成します。

女性・若手に優しいキャリア支援

- **子育て世代に優しい職場環境**
保育施設の整備、病児保育や学童保育の拡充、タイムシェアリングに取り組み、ワークライフバランスに配慮した家族と子どもに優しい環境を創ります。
- **女性教職員の積極的登用**
女性の視点を大切にし、女性教職員のキャリア支援を推進します。
- **若手教職員の成長支援**
テニユアトラック制度、研究支援体制、教職員の能力向上を目指すSD/FDを充実させ、若手教職員の成長を支援します。

大学発の地域イノベーション

- **地域活性化の拠点形成**
地域活性化の中核的拠点機能の充実に向けて、地域イノベーションをさらに進展させます。
- **産学官民連携の推進**
産業界や行政、NPOへの積極的な支援と地域大学間ネットワークの構築を推進し、知的財産の創造、技術革新の創出を実現します。
- **大学主導の地域創生**
地場産業の振興、地域医療の充実、防災減災などの地域課題に取り組み、持続性のある魅力的な地域創生に貢献します。

多様で独創的な学術研究

- **研究基盤の整備**
日本の将来を拓く“研究の多様性”を維持し、研究者の持つ意欲・能力を最大化する研究実施基盤と研究費獲得基盤を整備します。
- **多分野融合型研究の活性化**
総合大学の強みと中規模大学の機動力を活かした多分野融合型研究を活性化させます。
- **研究成果の社会への還元**
研究成果を積極的に発信し、地域社会と国際社会の持続発展に寄与する大学を目指します。

自然と共生するグローバル・キャンパス

- **教育研究環境のグローバル化**
外国人留学生獲得と外国人教員招聘、海外拠点形成を強化し、グローバル・キャンパスを実現します。
- **世界から評価される教育研究水準の達成**
国際通用性のある教育、学生の留学、教職員の海外研修、国際共同研究を推進します。
- **自然豊かなグリーン・キャンパス**
学生と外国人留学生が、自然豊かで快適な環境で共に学ぶグリーン・キャンパスを目指します。



学部

5 学部 **9** 学科 **1** 課程

- 人文学部 文化学科、法律経済学科
- 教育学部 学校教育教員養成課程
- 医学部 医学科、看護学科
- 工学部 総合工学科
- 生物資源学部 資源循環学科、共生環境学科、生物圏生命化学科、海洋生物資源学科

大学院

6 研究科

- 人文社会科学研究科
- 教育学研究科
- 医学系研究科
- 工学研究科
- 生物資源学研究科
- 地域イノベーション学研究科

教職員数

(令和元年5月1日現在)

1,994 人

役員 **8** 人 教員 **770** 人
職員 **1,216** 人

学部学生数

(令和元年5月1日現在)

6,028 人

外国人留学生数

(令和元年5月1日現在)

291 人

大学院学生数

(令和元年5月1日現在)

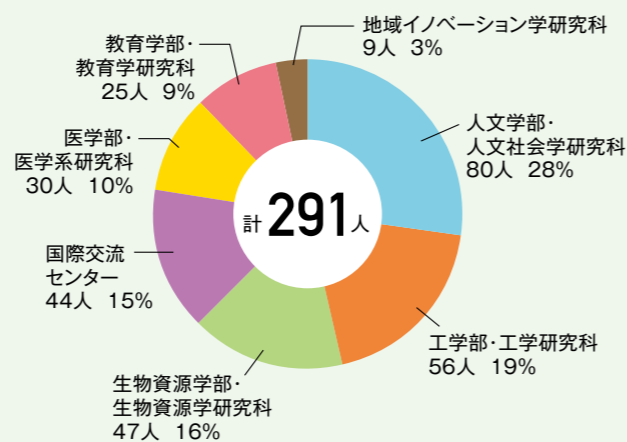
1,111 人

海外留学者数

(平成30年度)

425 人

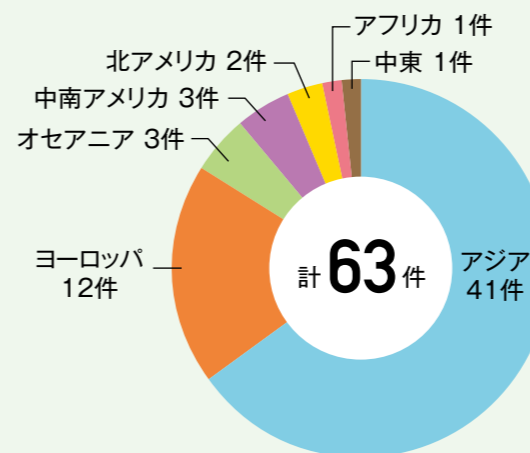
外国人留学生数
(学部・研究科等別)



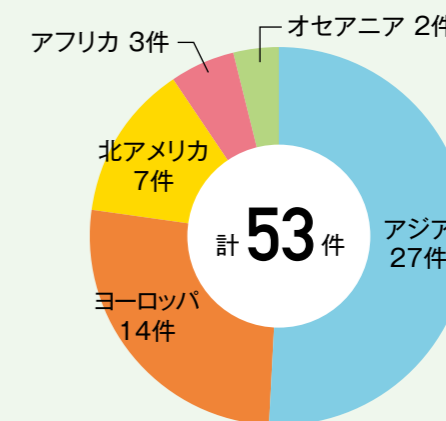
国際交流状況

(令和元年5月1日現在)

海外大学間協定数(24ヵ国)



海外大学学部間協定数(26ヵ国)



予算規模

(令和元年度)

収入・支出 **45,840** 百万円

民間企業等との共同研究件数

(平成30年度)

件数 **1,713** 件

金額 **2,068** 百万円

土地・建物面積

(令和元年5月1日現在)

土地面積 **5,511,692** ㎡
(うち借受地 91,944㎡)

建物面積 **321,943** ㎡

附属図書館

和書 719,923 冊 洋書 229,610 冊
計 **949,533** 冊 (平成31年3月31日現在)

入館者総数 **322,306** 人 (平成30年度)

医学部附属病院

(平成30年度)

病床数 **685** 床

入院患者延数 **211,802** 人

1日平均入院患者数 **580.3** 人

外来患者延数 **340,695** 人

1日平均外来患者数 **1,396.3** 人



監事 (2名)

役員会
(学長、理事6名)

(重要事項は役員会の議を経る)

学長

学長顧問 (2名)

学長補佐 (6名)

- 理事 (教育担当)・副学長
- 理事 (研究・社会連携担当)・副学長
- 理事 (総務・財務・基金・企画・評価担当)・副学長
- 理事 (情報・国際・環境担当)・副学長
- 理事 (産学連携担当)・非常勤

- 副学長 (経営担当)・事務局長
- 副学長 (教育・COC+担当)
- 副学長 (学生総合支援・インターンシップ担当)
- 副学長 (研究担当)
- 副学長 (社会連携担当)
- 副学長 (産学連携担当)
- 副学長 (地域創生担当)
- 副学長 (国際交流担当)
- 副学長 (広報担当)
- 副学長 (危機管理担当)
- 副学長 (附属病院担当)

教育研究評議会

(主に教学面を審議)
(学長、理事、学内者29名)

経営協議会

(主に経営面を審議)

学外有識者 9名
学長、理事、学内者 8名

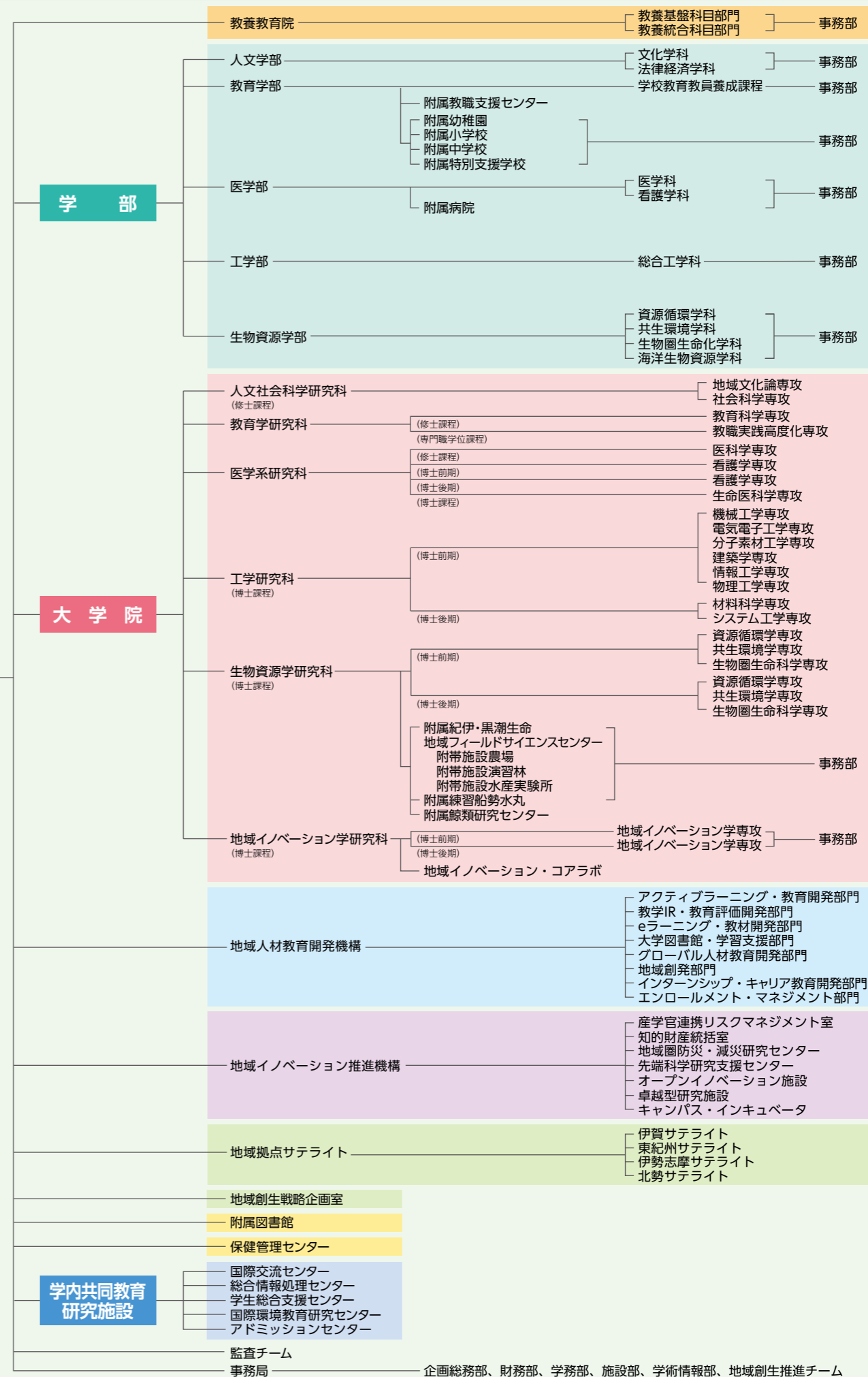
学長選考会議

学外者6名
学内者6名
学長、理事2名

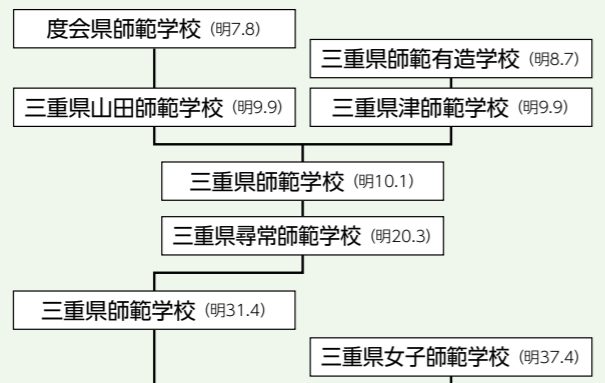
(学長を選考)



三重大学

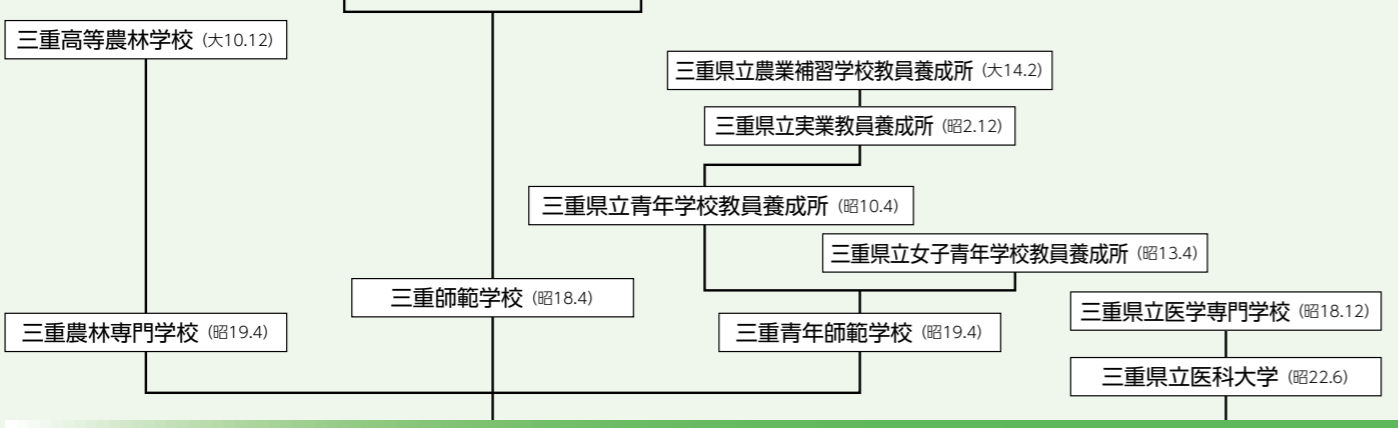


1874
明治7年

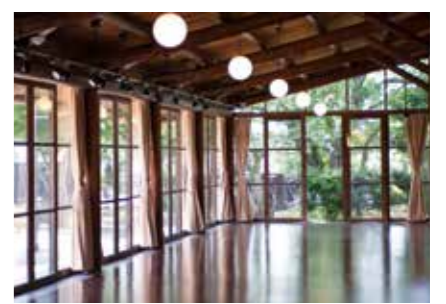
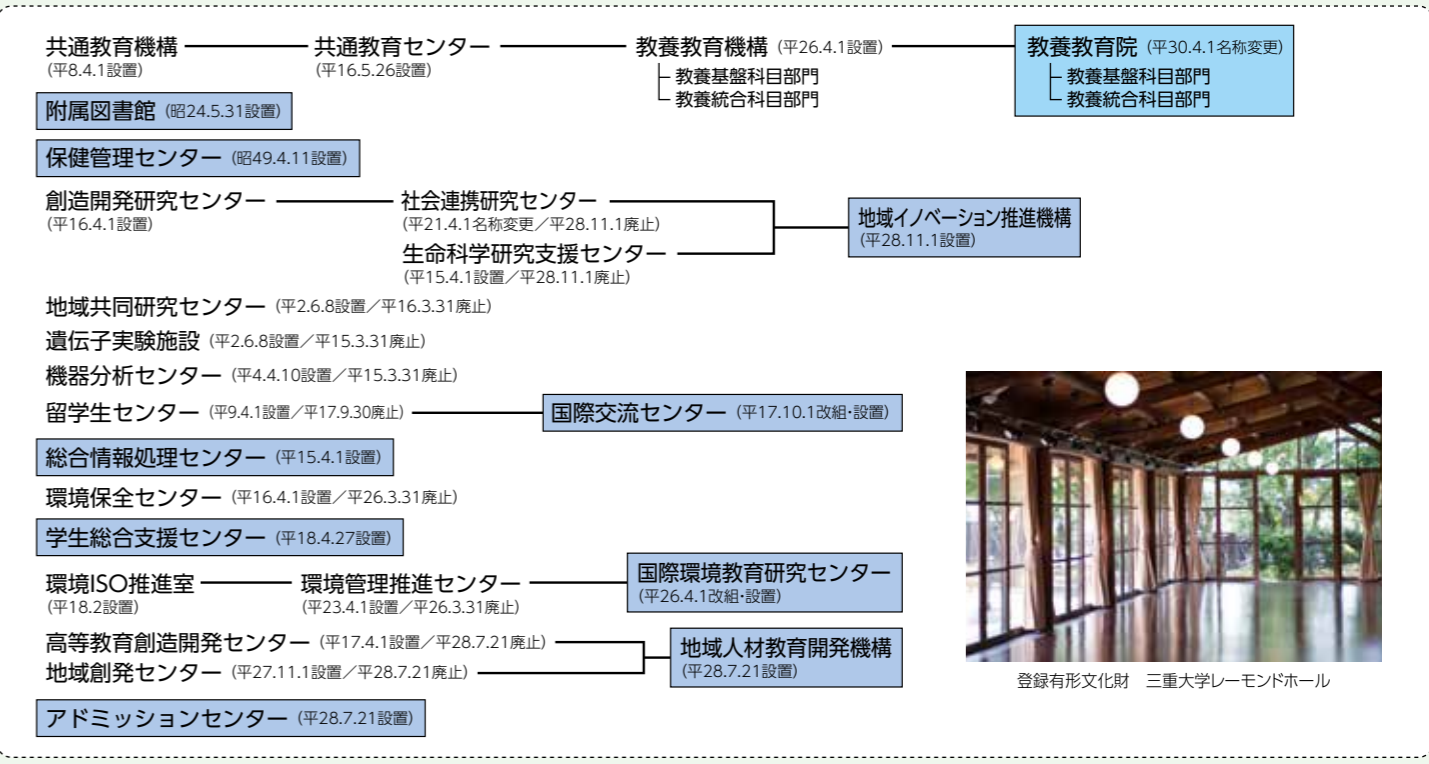


登録有形文化財 三重大学三翠会館

1912
大正元年



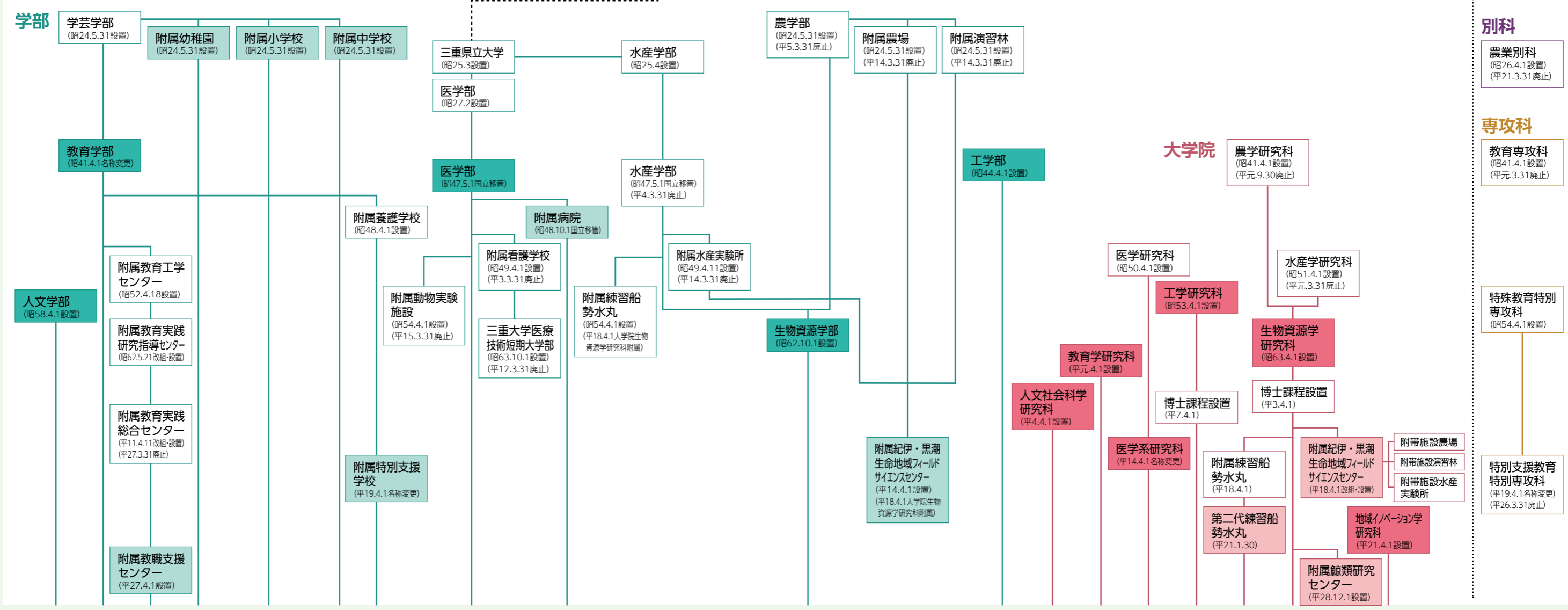
1945
昭和20年



登録有形文化財 三重大学レーモンドホール

三重大学 (昭和24年5月31日)

国立大学法人移行 (平16.4.1)





役職員

令和元年度

役員等

学 長	駒田 美弘
理 事 (教育担当)・副学長	山本 俊彦
理 事 (研究・社会連携担当)・副学長	緒方 正人
理 事 (総務・財務・基金・企画・評価担当)・副学長	尾西 康充
理 事 (情報・国際・環境担当)・副学長	梅川 逸人
理 事 (産学連携担当)・非常勤	伊藤 公昭
監 事 (業務監査)	服部 正興
監 事 (会計監査)・非常勤	山中 利之
副学長 (経営担当)・事務局長	大高 弘士
副学長 (教育・COC + 担当)	富樫 健二
副学長 (学生総合支援・インターンシップ担当)	野崎 哲哉
副学長 (研究担当)	橋本 篤
副学長 (社会連携担当)	西村 訓弘
副学長 (産学連携担当)	鶴岡 信治
副学長 (地域創生担当)	松田 裕子
副学長 (国際交流担当)	吉松 隆夫
副学長 (広報担当)	吉本 敏子
副学長 (危機管理担当)	富本 秀和
副学長 (附属病院担当)	伊藤 正明

学長補佐

学長補佐 (教務担当)	苅田 修一
学長補佐 (インターンシップ担当)	川中 普晴
学長補佐 (入試担当)	飯田 和生
学長補佐 (研究担当)	北川 敏一
学長補佐 (国際交流担当)	金子 聡
学長補佐 (情報担当)	山守 一徳

学長顧問

学長顧問	内田 淳正
学長顧問	珠玖 洋

学長アドバイザー

学長アドバイザー	日高 弘義
学長アドバイザー	村田 吉優

経営協議会委員

(学内委員)	
学 長	駒田 美弘
理 事 (教育担当)・副学長	山本 俊彦
理 事 (研究・社会連携担当)・副学長	緒方 正人
理 事 (総務・財務・基金・企画・評価担当)・副学長	尾西 康充
理 事 (情報・国際・環境担当)・副学長	梅川 逸人
理 事 (産学連携担当)・非常勤	伊藤 公昭
医学部附属病院長	伊藤 正明
事務局長	大高 弘士
(学外委員)	
三重テレビ放送株式会社 相談役	志田 行弘
三重県知事	鈴木 英敬
東京国立博物館 館長	銭谷 眞美
学校法人鈴鹿医療科学大学 理事長	高木 純一
株式会社光機械製作所 代表取締役社長	西岡 慶子
公益社団法人三重県医師会 会長	松本 純一
ICDAホールディングス株式会社 代表取締役社長	向井 弘光
公立大学法人三重県立看護大学 名誉教授	村本 淳子
株式会社百五銀行 顧問	渡辺 義彦

教育研究評議会評議員

学 長	駒田 美弘
理 事 (教育担当)・副学長	山本 俊彦
理 事 (研究・社会連携担当)・副学長	緒方 正人
理 事 (総務・財務・基金・企画・評価担当)・副学長	尾西 康充
理 事 (情報・国際・環境担当)・副学長	梅川 逸人
理 事 (産学連携担当)・非常勤	伊藤 公昭
副学長 (経営担当)・事務局長	大高 弘士
副学長 (教育・COC + 担当)	富樫 健二
副学長 (学生総合支援・インターンシップ担当)	野崎 哲哉
副学長 (研究担当)	橋本 篤
副学長 (社会連携担当)	西村 訓弘
副学長 (産学連携担当)	鶴岡 信治
副学長 (地域創生担当)	松田 裕子
副学長 (国際交流担当)	吉松 隆夫
副学長 (広報担当)	吉本 敏子
副学長 (危機管理担当)	富本 秀和
副学長 (附属病院担当)・医学部附属病院長	伊藤 正明
教養教育院長	綾野 誠紀
人文学部長	安食 和宏
教育学部長	鶴原 清志
医学系研究科長	片山 直之
工学研究科長	畑中 重光
生物資源学研究科長	奥村 克純
地域イノベーション学研究科長	三宅 秀人
人文学部教授	樹神 成
教育学部教授	藤田 達生
医学系研究科教授	村田真理子
工学研究科教授	伊藤 智徳
生物資源学研究科教授	神原 淳

事務局

事務局長	大高 弘士
監査課長	粟生 泰幸
企画総務部長	園邊 邦輝
総務課長	草川 雅彦
企画戦略課長	小林 泰久
人事労務課長	井澤 克弘
財務部長	田中 賢一
財務課長	櫻井 勝英
経理課長	伊藤 玲子
契約課長	坂井 崇
学務部長	室屋 守男
教務課長	山内 敏博
学生支援課長	草川 弥生
就職支援課長	富島 嘉夫
入試課長	稲垣 義一
地域人材教育開発機構課長	松原 行志
施設部長	草 一宏
施設企画課長	松井 宏文
施設管理課長	橋本 健
施設環境課長	鈴木 律文
学術情報部長	山下 郁夫
研究推進課長	竹内美佐子
社会連携課長	石川 祐子
情報・図書館課長	萩 誠一
国際交流課長	竹島 恒
地域創生推進課長	大畑 歩

教養教育院

院長	綾野 誠紀
副院長	野田 明
事務長	喜井 健二

地域人材教育開発機構

機構長	山本 俊彦
-----	-------

地域イノベーション推進機構

機構長	緒方 正人
-----	-------

地域拠点サテライト

統括者	駒田 美弘
-----	-------

地域創生戦略企画室

室長	駒田 美弘
----	-------

附属図書館

館長	梅川 逸人
----	-------

各センター長

国際交流センター長	吉松 隆夫
総合情報処理センター長	辻本 公一
学生総合支援センター長	野崎 哲哉
国際環境教育研究センター長	梅川 逸人
アドミッションセンター長	山本 俊彦
保健管理センター所長	富本 秀和

人文学部

学部長	安食 和宏
副学部長	豊福 裕二
事務長	大西 則弘

教育学部

学部長	鶴原 清志
副学部長	伊藤 信成
事務長	森本 修一
附属教職支援センター長	山口 泰弘
附属小学校長	松浦 均
附属中学校長	新田 貴士
附属特別支援学校長	秋元ひろと
附属幼稚園長	松本 昭彦
事務長	鷹野 雅一

大学院医学系研究科・医学部

研究科長 (兼：学部長)	片山 直之
副研究科長	山崎 英俊
副研究科長	堀 浩樹

医学部附属病院

院長	伊藤 正明
副病院長	伊佐地秀司
副病院長	池田 智明
副病院長	須藤 啓広
副病院長	佐久間 肇
副病院長・看護部長	江藤 由美
副病院長	兼児 敏浩
副病院長	近藤 峰生
副病院長	山田 浩之
病院長補佐	竹内 万彦
薬剤部長	池田 智明
医学・病院管理部長	山田 浩之
総務課長 (兼)	山田 浩之
経営管理課長	伊藤 敦士
学務課長	加納 深雪
医事課長	土屋 有司

大学院工学研究科・工学部

研究科長 (兼：学部長)	畑中 重光
副研究科長	池浦 良淳
事務長	小林 浩司

大学院生物資源学研究科・生物資源学部

研究科長 (兼：学部長)	奥村 克純
副研究科長	酒井 俊典
副研究科長	神原 淳
事務長	下 初
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター長	松村 直人
附属練習船勢水丸船長	前川 陽一
事務長	福場 博文
附属鯨類研究センター長	吉岡 基

大学院地域イノベーション学研究科

研究科長	三宅 秀人
副研究科長	小林 一成
副研究科長	末原憲一郎

歴代学長

初 代	岡出 幸生	昭24. 5.31~昭32. 5.31
事務取扱	中野 清作	昭32. 6. 1~昭32.12. 9
2 代	野村 武衛	昭32.12.10~昭41.12. 9
事務取扱	角谷辰次郎	昭41.12.10~昭42. 2.28
3 代	野田 福吉	昭42. 3. 1~昭45. 2.28
事務取扱	井町 勇	昭45. 3. 1~昭45. 3.16
4 代	野田 福吉	昭45. 3.17~昭46.11. 8
事務取扱	岩本 喜一	昭46.11. 9~昭47. 6.30
事務取扱	榊原 慎吾	昭47. 7. 1~昭49. 2. 9
5 代	三上 美樹	昭49. 2.10~昭55. 2. 9
6 代	井澤 道	昭55. 2.10~昭61. 2. 9
7 代	武田 進	昭61. 2.10~平 4. 2. 9
8 代	武村 泰男	平 4. 2.10~平10. 2. 9
9 代	矢谷 隆一	平10. 2.10~平16. 3.31
10 代	豊田 長康	平16. 4. 1~平21. 3.31
11 代	内田 淳正	平21. 4. 1~平27. 3.31
12 代	駒田 美弘	平27. 4. 1~



学部・大学院（専攻・講座）等

◎ 教養教育院

三重大学では全学生が教養教育科目と専門教育科目を履修します。
 教養教育院は教養教育科目を提供します。教養教育科目は、全学生が履修する「共通カリキュラム」と各学部が指定する科目を履修する「目的別カリキュラム」から成ります。

「共通カリキュラム」は「自律的・能動的学修力の育成」と「グローバル化に対応できる人材の育成」を理念とし、全学生が教養基盤科目（アクティブ・ラーニング、外国語、異文化理解、健康科学）と教養統合科目（地域理解・日本理解、国際理解・現代社会理解、現代科学理解）の中から定められた単位を履修します。

「目的別カリキュラム」として基礎教育やキャリア教育の科目も履修できます。



部 門
教養基盤科目、教養統合科目

◎ 人文学部・大学院人文社会科学研究科

人文・社会科学の教育及び研究を通じて、地域文化の発展に寄与するとともに、人間と社会の在り方を根底から探究し、問題の解決に主体的に取り組む人材を育成します。



人文学部（2学科・4講座／2コース）		
	学 科	講 座／コ ー ス
学 部	文化	日本研究講座、アジア・オセアニア研究講座、ヨーロッパ・地中海研究講座、アメリカ研究講座
	法律経済	法政コース（統治システム履修プログラム・生活法システム履修プログラム）、現代経済コース（企業経営履修プログラム・地域経済履修プログラム）
大学院人文社会科学研究科（2専攻）		
	専 攻	
修士課程	地域文化論	
	社会科学	

◎ 教育学部・大学院教育学研究科

多様な分野からなる総合的な学部としての特長を生かし、人文・社会・自然科学を基礎とした発達や教育に関する深い専門性と職業人として十分な資質を備えた人材を育成します。



教育学部（1課程・13コース）		
	課 程	コ ー ス
学 部	学校教育教員養成	国語教育、社会科教育、数学教育・情報教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、技術・ものづくり教育、家政教育、英語教育、特別支援教育、幼児教育、学校教育
大学院教育学研究科（2専攻・5教育領域／2コース）		
	専 攻	教育領域／コ ー ス
修士課程	教育学	学校教育領域、特別支援教育領域、人文・社会系教育領域、理数・生活系教育領域、芸術・スポーツ系教育領域
専門職学位課程	教職実践高度化	学校経営力開発コース、教育実践力開発コース

◎ 大学院医学系研究科・医学部

確固たる使命感と倫理観をもつ医療人を育成し、豊かな創造力と研究能力を養い、人類の健康と福祉の向上に努め、地域及び国際社会に貢献します。



大学院医学系研究科			
	専 攻	講 座	教育研究分野
博士課程・修士課程	生命医科学（博士課程）	基礎医学系	神経再生医学・細胞情報学、発生再生医学、機能プロテオミクス、幹細胞発生学、分子生理学、修復再生病理学、腫瘍病理学、統合薬理学、分子病態学、感染症制御医学・分子遺伝学、免疫学、医動物・感染医学、環境分子医学、公衆衛生・産業医学、法医学科学、医学医療教育学、免疫制御学、成育社会医学、動物機能ゲノミクス、遺伝子病態制御学
		臨床医学系	循環器・腎臓内科学、血液・腫瘍内科学、消化器内科学、呼吸器内科学、代謝内分泌内科学、神経病態内科学、リウマチ膠原病内科学、家庭医療学、精神神経科学、小児科学、皮膚科学、放射線医学、臨床薬理学、肝胆膵・移植外科、消化管・小児外科、胸部心臓血管外科、乳腺外科、産科婦人科学、脳神経外科、運動器外科、腫瘍集学治療学、腎泌尿器外科、眼科学、耳鼻咽喉・頭頸部外科、口腔・顎顔面外科、形成外科、麻酔集中治療学、臨床麻酔科学、救急災害医学、病態解析内科学、新生児学、成育医学、健康増進・予防医療学
		(産学官連携講座) 遺伝子・免疫細胞治療学	遺伝子・免疫細胞治療学
	医科学（修士課程）	(産学官連携講座) 臨床創薬研究学	臨床創薬学
		(産学官連携講座) システムズ薬理学	システムズ薬理学
		(産学官連携講座) 個別化がん免疫治療学	個別化がん免疫治療学
		(寄附講座) 認知症医療学	認知症医療学
		(寄附講座) 先進医療外科学	先端的外科技術開発学
		(寄附講座) スポーツ整形外科学	スポーツ整形外科学
		(寄附講座) 先進画像診断学	先進画像診断学
(寄附講座) 先進がん治療学	先進がん治療学		
	(多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン) 放射線腫瘍学講座	放射線腫瘍学	
大学院医学部			
	専 攻	領 域	教育研究分野
博士前期課程	看護学	基盤看護学	看護教育学、実践基礎看護学
		実践看護学	がん看護学、成人看護学、母性看護・助産学、小児看護学、老年看護学
		広域看護学	精神看護学、地域看護学
博士後期課程	看護学	看護教育学、実践基礎看護学、成熟期看護学、母子看護学、精神・ストレス健康科学、地域看護学	
医学部 2学科			
	学 科	講座又は学科目	
学 部	医学科		
	看護学科		

● 大学院工学研究科・工学部

工学の専門分野を教授することを通じて、知的理解力・倫理的判断力・応用的活用力を備えた人材を育成するとともに、科学技術の研究を通じて、自然の中での人類の共生、福祉の増進、および社会の発展に貢献することを目指します。



大学院工学研究科（8専攻・20講座）			
	専攻	講座	
博士 前期課程	機械工学	量子・電子機械、機能加工、環境エネルギー	
	電気電子工学	電気システム工学、情報・通信システム工学、電子物性工学	
	分子素材工学	分子設計化学、生物機能工学、素材化学	
	建築学	建築デザイン、建築マネジメント	
	情報工学	コンピュータサイエンス、知能工学	
博士 後期課程	物理学	量子工学、ナノ工学	
	材料科学、システム工学	材料物性、材料化学、電気情報システム、設計システム、循環システム設計	
工学部（1学科・5コース・17講座）			
	学科	コース	講座
学部	総合工学	機械工学	ロボティクス・メカトロニクス、機能創成プロセス、機械物理学、環境エネルギー
		電気電子工学	電気システム工学、情報・通信システム工学、電子物性工学、物理学
		応用化学	物理化学、無機分析化学、有機化学、生命化学
		建築学	建築学
		情報工学	コンピュータサイエンス、情報ネットワーク工学、知能システム工学、人間情報学

● 大学院生物資源学研究科・生物資源学部

自然と人類の共存を図り、生物資源の適切な開発と利用を追求する学問を確立し、その基礎的、応用的な科学技術を教授・研究することによって、独創性と専門性を兼ね備えた人材養成を目指します。



大学院生物資源学研究科（前期課程：3専攻・9講座、後期課程：3専攻・6講座）			
	専攻	講座	
博士 前期課程	資源循環学	農業生物学、森林資源環境学、国際・地域資源学	
	共生環境学	地球環境学、環境情報システム工学、農業土木学	
	生物圏生命科学	生命機能化学、海洋生命分子化学、海洋生物学	
博士 後期課程	資源循環学	資源循環システム科学、国際資源循環科学	
	共生環境学	気象・地球システム学、環境・生産科学	
	生物圏生命科学	応用生命化学、海洋生物科学	
生物資源学部（4学科、9コース）			
	学科	コース	
学部	資源循環学	農業生物学教育コース、森林資源環境学教育コース、グローバル資源利用学教育コース	
	共生環境学	地球環境学教育コース、環境情報システム学教育コース、農業土木学教育コース	
	生物圏生命科学	生命機能化学教育コース、海洋生命分子化学教育コース	
	海洋生物資源学	海洋生物資源学教育コース	

● 大学院地域イノベーション学研究科

現代の産業社会、特に三重地域圏などの地方産業界で生じている社会ニーズと大学院における教育の乖離を打破し、地方の衰退を食い止められる人材を養成するために「地域イノベーション学研究科」を設置し、「プロジェクト・マネジメントができる研究開発系人材」および「地域にゼロから1を創造できるソーシャル・アントレプレナー人材」を育成し、地域社会に輩出します。



大学院地域イノベーション学研究科（2専攻・4ユニット）			
	専攻	講座	
博士 前期課程	地域イノベーション学	工学イノベーションユニット、バイオイノベーションユニット、社会イノベーションユニット	
博士 後期課程	地域イノベーション学	地域新創造ユニット	

● 学内共同教育研究施設等

名称	設置目的及び研究部門等
地域人材教育開発機構	各部署との連携・協議を通して、三重大の教育目標の達成に向けた教育諸活動の創造・開発を推進するとともに、地方創生に資する地域人材育成の学位プログラム・教育の質保証に向けた取組みを支援することを目的とします。
地域イノベーション推進機構	地域イノベーションの推進に向けて、三重大が戦略的に展開する研究活動を支援・推進するとともに、三重大の教育研究資源を活用した成果の社会還元と、地域の発展に寄与する人材育成活動への支援を目的とします。
地域拠点サテライト	平成28年度から順次設置している「地域拠点サテライト」では、県内全域を三重大の教育研究フィールドと位置付け、多様な地域特性を有する4つの地域サテライト（伊賀サテライト、東紀州サテライト、伊勢志摩サテライト、北勢サテライト）を展開しています。各地域サテライトにおいては、自治体・教育機関等との連携および協力のもとに、特色豊かな活動拠点が置かれ、教員や学生がフィールドワーク等の実践的な教育研究活動を行っています。 また、これら4つの地域サテライトが地元企業や自治体と大学を繋ぐハブ機能としての役割を担うことで、地域課題の発見・共有、共同研究・共同プロジェクト等を通じた課題解決等に全学的に取り組みながら、三重大の教育研究力の向上に加え、地域創生や地域の人材育成に貢献しています。
地域創生戦略企画室	地域貢献型大学を掲げる三重大の重要な使命である教育力・研究力の強化と深化を図るとともに、教育研究成果を積極的に社会に還元し、地域創生に寄与することを目的とします。 学長の強いリーダーシップの下、本学が地域の企業や自治体等との組織対組織による戦略的なプロジェクト（地域創生プロジェクト）を企画・展開することで、本学における教育・研究の深化に寄与します。さらに、この地域創生プロジェクトに学内の教職員・学生、あるいは地域の企業や行政職員が参画することで、地域共創を牽引する基幹人材の育成を目指します。
附属図書館	研究支援機能、学習支援機能、地域貢献機能を3本柱とする附属図書館は、隣接する環境・情報科学館とともに、知を獲得・創出し、共有する場となります。
保健管理センター	教職員及び学生の健康の保持増進を図るための専門的業務を行うところで、医師・保健師・看護師等が“こころ”と“からだ”両面の相談に応じています。また、定期的な健康診断も行っています。
国際交流センター	国際交流事業及び国際教育を通じて国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し、三重大及び地域の国際化に寄与することを目的として設置され、海外大学との学術交流協定の締結、学生の海外留学、語学研修、留学生への日本語教育、インターシップ、就職支援、日本人学生への国際教育、部局の国際活動の支援等を行っています。
総合情報処理センター	教育システム、各種サーバーから、インターネットに接続されたキャンパスネットワークまでの多種多様な機器を管理運用することで教育、研究の支援を行います。またネットワークセキュリティの基礎を提供します。
学生総合支援センター	充実した学生生活の実現を図るため、学生の修学、就職及び生活等への支援を行います。
国際環境教育研究センター	上浜キャンパス（附属病院を除く）において、学生を中心とした環境マネジメントシステム（EMS）が国際標準規格（ISO14001：2015）に適合していることが確認され、平成28年11月19日、「ISO14001」を継続認証しました（初期登録平成19年11月）。現在は環境マネジメントシステムの継続的改善を図るとともに、「世界に誇れる環境先進大学」として環境教育・環境研究を推進し、大学の社会的責任（USR）を果たす活動を行っています。 また、教育研究活動に伴い排出される廃水、廃棄物、大気汚染等の適切な管理運営を行い、公害を防止し、環境の安全確保を図ります。
アドミッションセンター	三重大が定める基本方針に基づき、高校教育及び大学教育の連続性と一貫性に立つ高大接続を推進するとともに、多面的かつ総合的な評価で構成する入学選抜方法の開発と実現を通じ、地域に貢献する人材の育成に寄与することを目的とします。
博学連携推進室	博物館等との組織的な協力及び連携事業を推進することにより、地域における教育・研究のネットワークを発展させます。
男女共同参画推進室	本学では、平成20年7月に「三重大男女共同参画宣言」を行い、学長を委員長とする男女共同参画推進委員会の下、同専門委員会及び学生委員会と共に、女性活躍推進、ワーク・ライフ・バランス及び次世代育成支援等に配慮した働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。男女共同参画推進室は、教養教育における授業「男女共同参画基礎」の開講や、教員が出産・子育て又は介護等と研究の両立ができるよう支援する「研究補助者雇用経費助成事業」の実施、三重県と連携した意識啓発事業、イクボス宣言等、各種事業の実施で貢献します。

● 学部附属教育研究施設

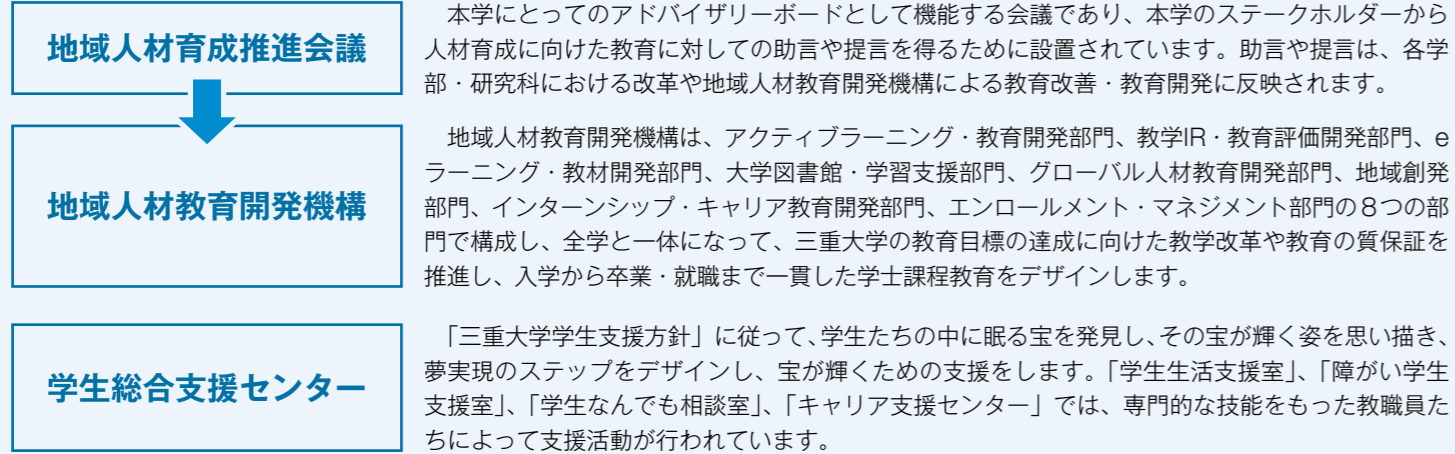
名称	設置目的及び研究部門等
教育学部附属教職支援センター	教員養成教育及び教師教育についての支援業務及び調査・研究の成果に基づく指導（教員養成支援部門、学校連携支援部門、研修開発支援部門、総合支援室）を行います。

● 大学院附属教育研究施設

名称	設置目的及び研究部門等
生物資源学研究科 附属紀伊・黒潮生命地域 フィールドサイエンスセンター	紀伊半島全域と黒潮流域に広がる山から海までの生態系を対象に、人間と自然との共存を目指す総合科学の実習教育・研究施設
附属施設農場	農地生産業務、果樹園芸業務、施設栽培業務、農産加工業務、機械・圃場管理業務、畜産管理業務、教育学部技術教育コースからなる農学及び地域環境の実習教育・研究施設
附属施設演習林	森林資源学並びに森林・地域環境保全の実習教育・研究施設
附属施設水産実験所	水産科学、海洋生物学並びに海洋環境保全の実習教育・研究施設
生物資源学研究科 附属練習船勢水丸	水産学・海洋生物学・海洋環境学に関する実習並びに研究調査
生物資源学研究科 附属鯨類研究センター	海洋生物資源としての鯨類の持続的利用に関する基礎から応用に至る研究を推進するための研究施設
地域イノベーション学研究科 地域イノベーション・コアラボ	高度専門職業人の育成及び大学の研究成果を社会に還元することを目的として、産学官連携による共同研究を実施する施設

「人と自然の調和・共生」を大切に、4つの力を育成

三重大は、学術文化の発信・受信拠点として「人と自然の調和・共生」を大切にしながら、地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出すことを目指しています。そのために、「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、そしてそれらを総合した「生きる力」がみなぎり、地域に根ざし、国際的にも活躍できる人材の育成を目標にしています。この目標を達成するための全学的組織として地域人材教育開発機構が設置されており、その協力の下、教養教育院や各学部においてそれぞれの特色を生かした教育プログラムが展開されています。



教育目標

幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、地域のイノベーションを推進できる人材を育成するために、「4つの力」、すなわち「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、それらを総合した「生きる力」を養成します。

■ 「感じる力」

感性、共感、主体性

■ 「生きる力」

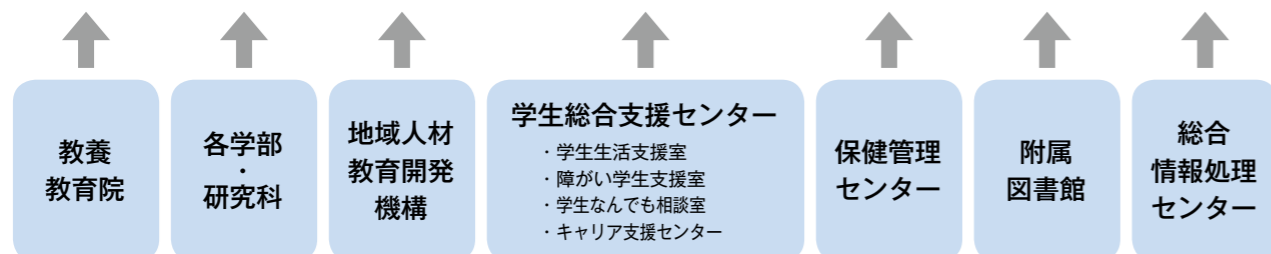
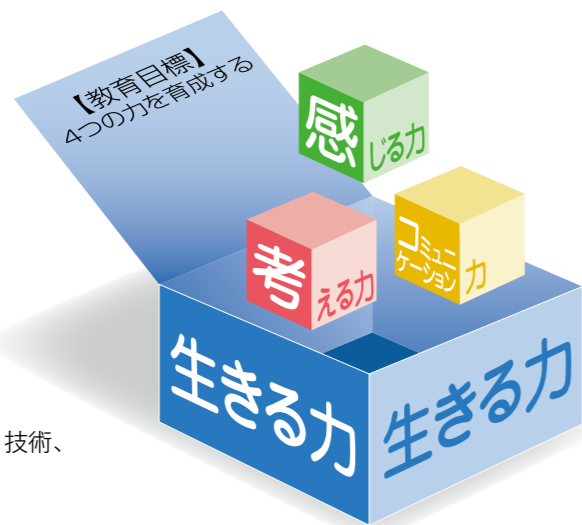
問題発見・解決力、心身の健康に対する意識、社会人としての態度・倫理観

■ 「考える力」

幅広い教養、専門知識・技術、論理的・批判的思考力

■ 「コミュニケーション力」

表現力（発表・討論・対話）、リーダーシップ・フォロワーシップ、実践外国語力



アクティブ・ラーニング	スタートアップセミナー 入学したばかりの学生を対象に教養教育で開講される全学必修の授業です。この授業では三重大の教育目標である「4つの力」に基づき、能動的学修態度を養います。グループごとに討論を重ね、問題発見からその解決までを行い、最後にプレゼンテーションを行います。コミュニケーション力の中では特に「聞く」「話す」に重点が置かれます。全国でも注目され、高い評価を受けています。
	教養ワークショップ 1年次後期に教養教育で開講される全学必修の少人数授業です。新書（論説文）を読み、グループでその内容を討論し、各自が書評にまとめ、さらに、書いた書評を互いに批評するという「読む」「書く」を中心とした授業です。自律的・能動的学修力をつけるためのこれまでに例のない新しい授業です。
グローバル人材育成	TOEIC等の活用によるコミュニケーション力向上 教養教育では、TOEIC IPテストを入学直後に行って習熟度別クラスで英語の授業を実施しています。英語の単位修得のためにはTOEIC IPテストで一定のスコアをとることが条件となっています。また、ドイツ語、フランス語、中国語の検定試験も単位認定や成績に反映されるようになっています。さらに、教養教育科目、専門教育科目で英語による授業を実施しています。
	英語特別プログラム 入学時TOEIC IPテストで優秀な成績を修めた学生は教養教育の英語特別プログラムに参加することができます。世界で活躍できる人材となることを目指して高度な英語の授業を受けるとともに、スタートアップセミナーや教養ワークショップに加えて教養統合科目の一部も英語で受講します。仕上げとしてイギリスへの海外研修に参加します。
キャリア教育	キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム キャリア力形成のための初級・上級資格（学内資格）取得を促し、就職に向けて広い実践力を身につけるよう取り組んでいます。プログラムを修了した学生は、ピアサポーターとして学生のキャリア教育を支援する活動を行います。
PBL教育	少人数の課題探求型学習形態であるPBLを全学的に展開し、教養教育科目及び各学部での専門科目において活用しています。この教育方法では、グループで能動的に課題の解決に取り組むことにより、コミュニケーション能力が高まり、深く本質的な理解に到達することができます。
eラーニング	本学の教育に合わせたMoodleやeポートフォリオなどの授業支援システムや、TOEICオンライン学習システムなどを導入し、総合情報処理センターの協力のもと、eラーニングを活用した能動的な学習の促進を行っています。Moodleでは、授業時間外における教員・学生間のディスカッションや課題の提出を行うことができ、eポートフォリオでは学生自身が日々学んだことを記録したり省察したりすることができます。
JABEE (日本技術者教育認定機構) 認定の教育プログラム	日本技術者教育認定機構（JABEE）は、専門技術者を育成する教育課程が国際社会の要求水準を満たしていることを認定する公的機関です。本学では現在、生物資源学部（共生環境学科地域環境デザイン学教育コース農薬土木学プログラム）の教育プログラムが同機構から認定を受けています。工学部（電気電子工学科、建築学科）、および生物資源学部（生物圏生命科学科）も過去に受審申請して認定を受けた経歴があるなど、本学の技術者教育は国際的に通用する水準で行われています。
社会貢献	高校との教育連携事業の推進（高大連携） 三重大では、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業及びスーパーグローバルハイスクール（SGH）事業の推進に貢献しています。また、高校との教育連携推進のための交流会、推進会を継続的に開催し、高校生を対象とした公開授業（東紀州講座）及びサマーセミナーを開講するとともに、単位認定も行う高大連携授業を実施しています。このほか、本学教員による高校への「出前授業」も行っており、平成30年度は約75回、延べ2,700人の高校生に講義を行いました。
	教員免許状更新講習 教員免許の更新のために義務づけられている「教員免許状更新講習」を文部科学省の認定のもとに開催しています。平成30年度は185講座を開講し、延べ約4,800人が受講されました。
	市民向け公開講座など （P44参照） 教養教育院や各学部が主催して市民向け公開講座を開講したり、「みえアカデミックセミナー（三重県生涯学習センター）」等に本学教員が出講しています。また三重大で開講している授業のうちの約50科目は「市民開放授業」としており、例年約50名が受講されています。

多様で独創的な研究を充実させ、社会に成果を還元

三重大学は、多様な独創的応用研究と基礎研究の充実を図り、さらに固有の領域を伝承・発展させると共に、総合科学や新しい萌芽的・国際的研究課題に鋭意取り組み、研究成果を社会に積極的に還元します。

地域の課題を探求するならば、それが狭い研究分野の枠に収まり切るなどということは決してなく、本学の研究が産業へ、経済へ、社会へと通じ、また自然へ、歴史へ、文化へと連なっていく。これこそが、私たちの本当の未来の姿を描き出す研究の動機であり契機となります。

三重大学は、各種学問の横断的総合体として、地域との強い絆を持ち続けます。

研究に関する目標

1. 研究水準及び研究の成果

研究者の自由な発想に基づく基礎研究を進展させ、それぞれの学術分野や学際領域における特色ある研究を推進し、本学を代表する領域においては、世界水準の研究を推進する。

2. 研究成果の教育への反映及び社会への還元

研究成果を教育に反映させ、社会に還元するために、地域自治体や産業界との産学官連携活動等を推進する。

● 研究による地域イノベーションの推進 ●

1. リサーチセンター

三重大学では、研究の最終ターゲットを共有する様々な分野の研究者が横断的に研究グループを作り、新たな視点を持った研究や新技術の創生を目指す事を目的とした“三重大学リサーチセンター”を設置しています。一覧はP46を参照。

重点的に支援するリサーチセンター

- (1) 卓越型リサーチセンター
- (2) 若手リサーチセンター

2. 若手研究者の支援

若手研究者（39歳以下）による研究と異分野（複数の学部・研究科、学科）の連携研究及び国際共同研究を強化するために、海外で開催される学術研究集会の旅費支給、研究資金及び研究スペースの提供を行っています。

3. 共同研究機器の整備

三重大学における設備整備に関するマスタープランを作成し、それに基づき計画的に設備を整備しています。



高速液体クロマトグラフ質量分析装置



試料水水平型多目的X線回折測定装置

4. 地域拠点サテライトに関連する研究センター・学舎等

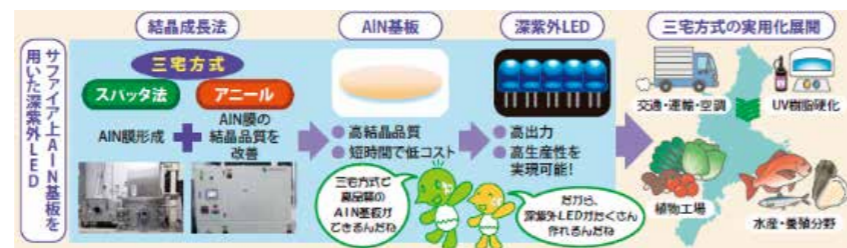
地域の特色ある教育研究を産学官連携で推進する研究の拠点として設置しています。

- (1) 伊賀サテライト（国際忍者研究センター、伊賀研究拠点）
- (2) 東紀州サテライト（東紀州教育学舎、東紀州産業振興学舎）
- (3) 伊勢志摩サテライト（海女研究センター）
- (4) 北勢サテライト（知的イノベーション研究センター）

5. 連携大学院

学術および科学技術の発展に寄与するために、連携大学院の協定を個別に締結しています。

農研機構野菜花き研究部門、増養殖研究所、森林総合研究所関西支所、太陽化学、医薬基盤研究所、成育医療研究センター、三重中央医療センター、三重病院等



卓越型リサーチセンターの一例（特異構造の結晶科学リサーチセンター）

教育と研究を通して地域と連携

三重大学は、教育と研究を通じて地域づくりや地域発展に寄与するとともに、地域社会との双方向の連携を推進します。地域に根ざした知の支援活動と、産学官民連携の強化と推進を図ります。

社会連携

三重大学では、自由で独創的な知の創造という大学の教育・研究の特性に根ざした、産・学・官・民の連携交流の拠点を整備することにより、社会的に貢献し得る新たな知を科学と技術の両面にわたって創造することが、大学の活性化と社会への寄与に極めて重要な意義を持つものと考え、社会連携活動を活発に取り組んでいます。

一方、青少年や一般社会人向けの啓発関連事業として、青少年のための科学の祭典、Jr.ロボコンなど、また、社会人等を対象としたみえ防災塾、専門職防災研修、MOT（技術経営）講座などによる実践教育を行っています。

平成21年度からは、独立大学院「地域イノベーション学研究所」を設置し、共同研究を通じた実践的人材育成を行い、地域産業界の核となる人材の輩出を目指しています。

また、平成23年4月に「地域戦略センター（現：地域創生戦略企画室）」を設置し、地方自治体との連携によって、地域が抱える産業育成、地域振興、観光政策、環境政策等の諸問題に対する政策提言等を行う活動を開始したほか、平成25年4月からは、地域圏防災・減災研究センターを設置し、三重県を中心とした地域圏における防災及び減災に関する研究、教育、社会連携の推進及び災害医療への寄与にも取り組んでいます。

地方自治体との連携・協力協定

三重大学では、三重県の地域創生戦略の一つとして、県内全ての自治体（29市町）との協定締結とプロジェクトの実施を目指して取り組んでおり、協定締結については、平成28年度に県内全市町との協定締結を実現しました。今後は、三重県はもとより既に協定を締結している県内各市町とも、それぞれの協定に基づいて、地域創生の実践に関する諸課題への的確な対応や、三重大学における教育研究、各市町における地域振興に資するプロジェクトについては、オール三重大学のもと、より厚い連携・協力によって責任を持って実施していきます。

地域貢献型研究

三重県、伊勢湾、紀伊半島等の地域の諸問題をテーマにした様々な学際研究を推進するとともに、地域に向けた各種シンポジウム、フォーラム等を開催しています。

また、地域貢献活動の創造及び推進を目的に、本学の教職員を代表者とする教育・研究に基づく自主的な活動を「三重大学地域貢献活動支援事業」として助成支援し、全学で地域貢献活動に取り組んでいます。



第1回地域防災研究会「市町タイムラインの策定支援」の様子

「地方自治体における防災・減災に関する地域課題解決のための活動支援」
工学研究科・地域イノベーション推進機構地域圏防災・減災研究センター 准教授 川口 淳



木育ゲームの説明の様子

「東紀州サテライトを拠点とした熊野地域の小中高の児童・生徒に対する「木育」プログラムの開発と実施」
地域拠点サテライト 山本 康介

共同研究

民間等との共同研究や受託研究に加えて、学部・研究科を超えた学際的共同研究、国内大学間共同研究、国際的な共同研究など三重大学の研究の特色を生かした幅広い共同研究が行われています。特に地方公共団体や地域企業との共同研究は活発に行われ、地域中小企業との共同研究においては全国上位の実績を挙げており、地域の発展に大きく貢献しています。地域イノベーション推進機構、(株)三重ティーエルオーが、各部署と連携して、大学の持つ研究シーズと民間企業等のニーズのマッチングによる共同研究を推進しています。

知的財産創出

三重大学独自の知的財産の拡大を図ることを目的として知的財産統括室を設置し、知的財産の創出から特許等の出願、管理、活用までの業務を一元的に推進しています。権利化された知的財産は、(株)三重ティーエルオーとも連携しながら民間企業等への技術移転を図っています。また、知的財産に関わる啓発、学生教育の他、Mip (Mie intellectual property) 特許塾を通しての県内の知的財産中核人材の育成を行っています。

全学シーズ集の提供・公開

三重大の知的財産（研究成果）を活用して、地域産業との共同研究の活性化を図り、地域との社会連携を推進するため、三重大学教員約700人の研究シーズを、学外者に向けて分かりやすく解説するとともに、教員の研究への熱い思いもこめた「三重大学全学シーズ集」を本学ホームページで公開しているほか、CD-ROMも配布しています。（<http://www.crc.mie-u.ac.jp/seeds/>）

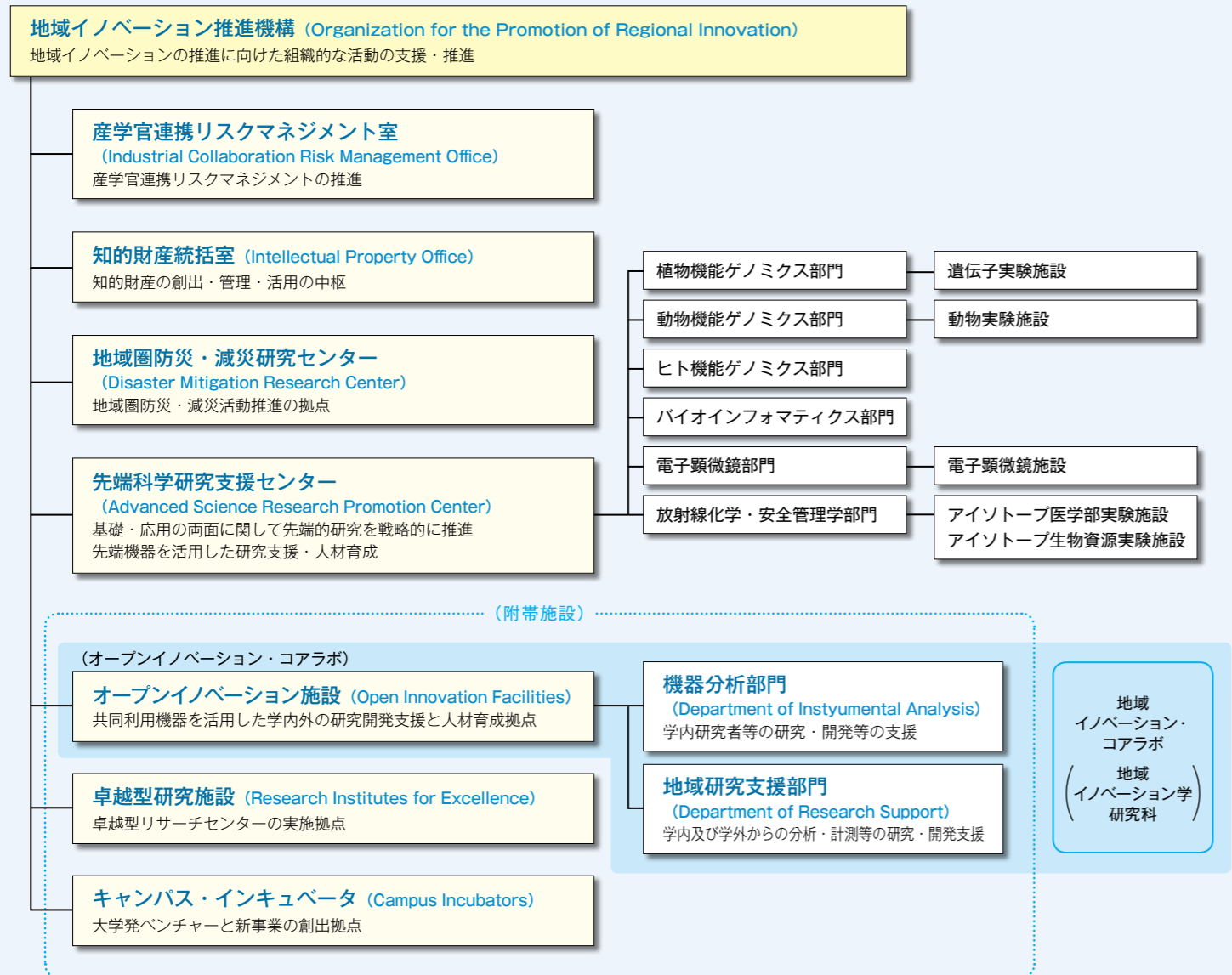
推進体制

地域イノベーション推進機構

地域イノベーション推進機構は、生命科学研究支援センターと社会連携研究センターを発展的に統合し、平成28年11月1日に発足した組織です。

地域イノベーション推進機構は、産学官連携の推進に伴い生じるリスク管理に取り組む「産学官連携リスクマネジメント室」、三重大学発となる知的財産の創出・管理・活用に取り組む「知的財産統括室」、地域の防災・減災活動を支援・推進する「地域圏防災・減災センター」、イノベーションの素となる先端科学研究を支援・推進する「先端科学研究支援センター」、共同利用機器を活用した学内外の研究開発支援・人材育成に取り組む「オープンイノベーション施設」、本学が認定する卓越型リサーチセンターの実施拠点となる「卓越型研究施設」、大学発ベンチャーと新事業の創出拠点となる「キャンパス・インキュベータ」を整備しています。

これらの体制を基に、学内の研究者のみならず、地域の方々からの技術相談や研究開発に関する様々なご要望に対して、学内外の研究者の交流を深めつつ、地域イノベーションの推進に向けた三重大学独自の活動を展開しています。



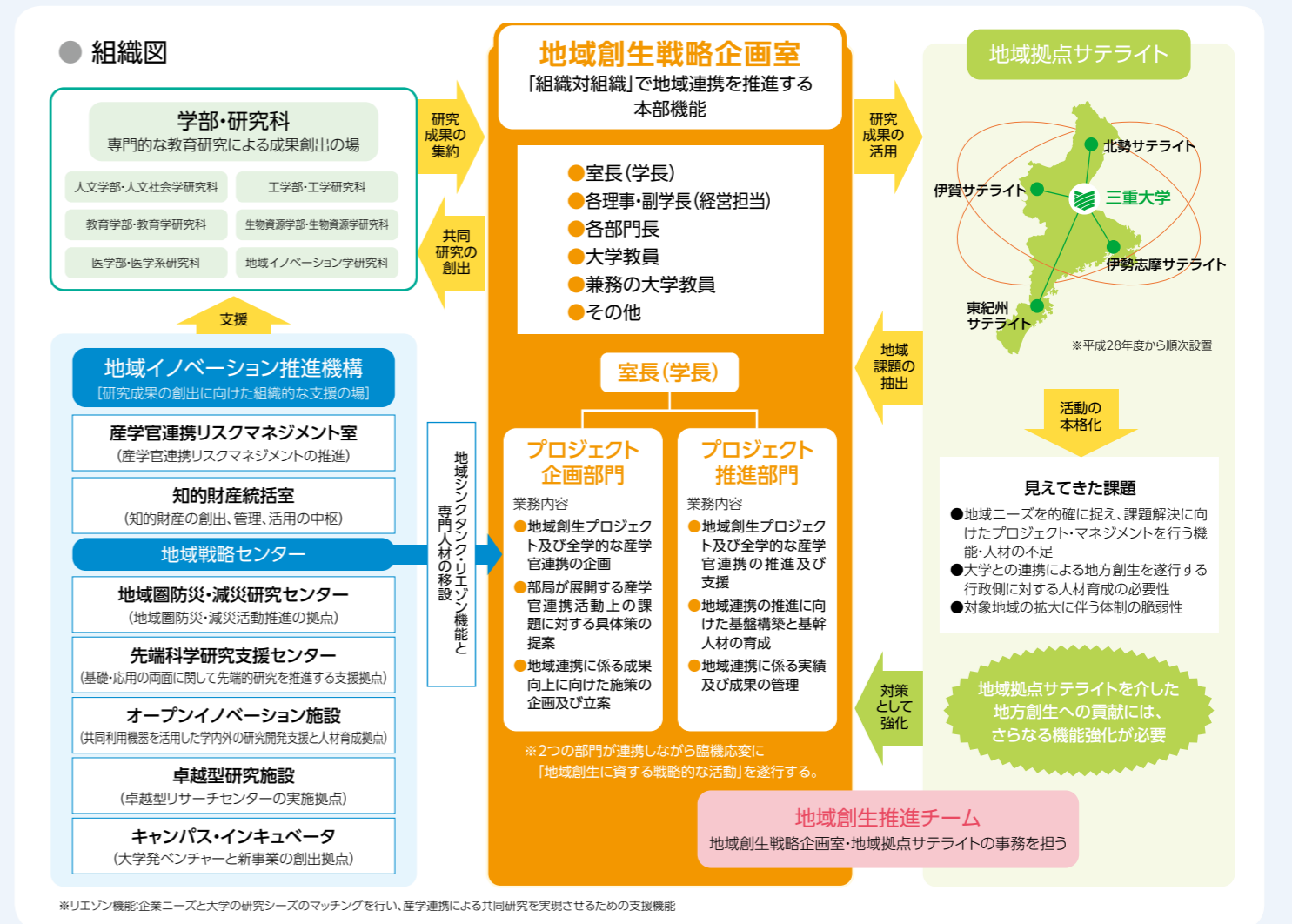
地域創生戦略企画室

地域貢献型大学を掲げる三重大学は、教育力・研究力の強化と深化を図るとともに、教育研究成果を積極的に社会に還元し、地域創生に寄与することを重要な使命と位置付けています。この使命を具現化するため、平成30年4月、本学の本部機能として「地域創生戦略企画室」を設置しました。

この地域創生戦略企画室は学長がトップとなり、地域創生に向けた強いリーダーシップの下、本学が地域の企業や自治体等との組織対組織による戦略的なプロジェクト（地域創生プロジェクト）を企画・展開することで、本学における教育・研究の深化に寄与します。さらに、この地域創生プロジェクトに学内の教職員・学生、あるいは地域の企業や行政職員が参画することで、地域共創を牽引する基幹人材の育成を目指します。

地域創生戦略企画室の主な業務は「プロジェクトマネジメント機能・体制の強化」「基幹人材の育成・蓄積」「地域創生に資する本部機能の整備」です。どの学部にも属さず、学長・理事を構成員に含めることで、経営責任に基づく判断の下での、フレキシブルな運営を実現します。また、「プロジェクト企画部門」、「プロジェクト推進部門」の2つの機能・部門を持ち、それぞれ社会連携担当副学長、地域創生担当副学長が部門長を務めます。

企画部門は地域創生プロジェクトの起案、具現化、組み上げを担当し、推進部門は各部署・機構と連携し、プロジェクト遂行を支援、あるいはプロジェクトの企画・構築・実施を活用した学内外への基幹人材の育成を担当しています。この両部門が、ステークホルダーからの意見・要望、地域拠点サテライトにおいて抽出した地域課題などから、地域の企業や事業者、行政機関や各種団体等と連携した地域創生プロジェクトを組み上げ、各学部・研究科や各サテライト等からなる全学横断的なチームアップにより「地域創生に資する戦略的な活動」の実現・実行を推進します。



※1 エンジン機能: 企業ニーズと大学の研究シーズのマッチングを行い、産学連携による共同研究を実現させるための支援機能



= From MIE to the World =
To form global human resources rooted in the community

地域拠点サテライト

平成28年度から順次設置している「地域拠点サテライト」では、県内全域を三重大学の教育研究フィールドと位置付け、多様な地域特性を有する4つの地域サテライト（伊賀サテライト、東紀州サテライト、伊勢志摩サテライト、北勢サテライト）を展開しています。各地域サテライトにおいては、自治体・教育機関等との連携および協力をもとに、特色豊かな活動拠点が置かれ、教員や学生がフィールドワーク等の実践的な教育研究活動を行っています。

また、これら4つの地域サテライトが地元企業や自治体と大学を繋ぐハブ機能としての役割を担うことで、地域課題の発見・共有、共同研究・共同プロジェクト等を通じた課題解決等に全学的に取り組みながら、三重大学の教育研究力の向上に加え、地域創生や地域の人材育成に貢献しています。

伊賀サテライト

Iga Regional Satellite Campus

- **担当エリア**：名張市、伊賀市
- **伊賀サテライトの目標（旗）**：固有文化と地域資源の活用で地域再生に寄与する拠点
- **具体的活動内容**：忍者等の歴史・文化、医薬品企業との連携、森林資源の活用等

伊賀連携フィールド・国際忍者研究センター（伊賀市：ハイトピア伊賀）

伊賀研究拠点（伊賀市：ゆめテクノ伊賀）

知的イノベーション研究センター（四日市市：ユマニテックプラザ）

北勢サテライト

Hokusei Regional Satellite Campus

- **担当エリア**：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町
- **北勢サテライトの目標（旗）**：日本のモノづくりの真髄を体感し富を生み出す拠点
- **具体的活動内容**：自動車、石油化学、食品化学企業等との産学連携事業、企業人材のリカレント教育、モノづくり企業との連携による学生・若手教員の育成等

伊勢志摩サテライト

Ise-Shima Regional Satellite Campus

- **担当エリア**：伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町
- **伊勢志摩サテライトの目標（旗）**：歴史ある自然との共生・共存の思想を世界に発信する拠点
- **具体的活動内容**：食と観光産業による地域創生の研究（歴史文化の交流、海女文化、水産資源の活性化、食品の6次産業化、観光資源の活用など）、地域人材の育成等

東紀州サテライト

Higashi-Kishu Regional Satellite Campus

- **担当エリア**：尾鷲市、熊野市、大台町、大紀町、紀北町、御浜町、紀宝町
- **東紀州サテライトの目標（旗）**：地域資源で富を生み力強い子供が育つことを支える拠点
- **具体的活動内容**：へき地教育、水産増養殖・加工業との連携、森林資源や観光資源の活用等

海女研究センター（鳥羽市：海の博物館）

東紀州産業振興学舎（尾鷲市：天満荘）

東紀州教育学舎（熊野市：木本高校）



自然環境リテラシー学（東紀州サテライト）

現地実習を通して、自然環境を体験的・実感的に学び、その知識や技能の習得や、持続的な保護や責任のある行動をとれる倫理観、自然災害を生き抜く力などの養成を目的としています。



健康福祉システム開発研究会（北勢サテライト）

行政人材や企業人材と意見交換をしながら、福祉分野における課題抽出から社会実装までの一連の流れについて研究し、持続可能なシステム開発を目指します。

国際ジョイントセミナー&シンポジウム

Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムは、三重大学（日本）、チェンマイ大学（タイ）、江蘇大学（中国）の3大学が1994年から交代でホスト校をつとめ毎年開催している国際交流を兼ねた英語による研究発表会です。2011年度よりポゴール農科大学（インドネシア）もホスト校として参加しています。2018年度には廣西大学（中国）が新たなホスト校として加わることが決定し、現在は5大学がホスト校をつとめ、例年アジアの10数大学から120名の学生・教職員が参加しています。



2018Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウム

2018年度は、チェンマイ大学で開催され、「人口」、「食料」、「エネルギー」、「環境」をテーマに持続可能社会の実現を目的とした研究発表やワークショップが行われました。2019年度は、第26回大会が江蘇大学（中国）にて開催されます。

コンセクティブディグリープログラム（接続学位制度）

三重大学は天津師範大学との協定に基づき、2009年4月から受け入れてきたダブルディグリープログラムの後継としてコンセクティブディグリープログラム（接続学位制度）を2019年4月から実施しています。

このプログラムは、天津師範大学の国際教育交流学部3年生の学生20名（従来のダブルディグリー制度の学生）を、1年間三重大学に留学した後帰国して卒業し、さらに優秀な学生については一般入試を受け、合格者は三重大学大学院に10月または翌年4月に進学するというプログラムです。

高い日本語レベルと国際感覚を備えたグローバルな人材を育成します。

ミッション

- ① 高いレベルの日本語を習得
- ② 専門知識の習得
- ③ キャンパスの国際化

ダブルディグリープログラム（複数学位制度）

三重大学は海外の大学と学位授与に関する協定を結び、両大学の学生が双方の大学に在籍し、必要な単位を取得するダブルディグリープログラムを、大学院レベルでスリウィジャヤ大学及びパジャジャラン大学（インドネシア）との間にて実施しています。

国際感覚、広い視野と専門知識を備えたグローバルな人材を育成します。

ミッション

- ① 双方の大学の学位を修得
- ② 異文化体験を通じて国際感覚を養う
- ③ 海外体験を通じて実践的な語学能力の向上
- ④ キャンパスの国際化を加速

国際キャリアアッププログラム

世界で活躍できるグローバル人材を育成するために、以下の取り組みを行っています。

- ▶ **海外短期研修**：マレーシア・タチ大学研修、トレンガヌ大学研修、カナダ・プリティッシュ・コロンビア大学海外語学研修等を実施しています。
- ▶ **サバイバル日本語講座**：日本での生活に困らないよう外国人留学生・外国人研究者を対象とした日本語講座を実施しています。
- ▶ **フィールドスタディ**：海外の協定校を訪問し現地学生と交流することで、異文化体験や国際理解を深めています。（ベトナム・フィールドスタディ）
- ▶ **様々な交流プログラム**：留学についての勉強会や留学生との交流会、イベントなどを通じて、コミュニケーション能力や異文化理解能力を高める機会を提供しています。



タチ大学研修

外国人研究者招へい

三重大学では、協定校を中心に外国人研究者の招へいを行っており、平成30年度には19名の外国人研究者を招へいしました。さらなる国際化教育や共同研究の促進を図るために、平成26年度からは、新たに大学独自の外国人教員短期招へいプログラムを開始しました。



附属図書館

研究や学習・教育に必要な高度学術情報の拠点

三重大学附属図書館は、平成25年3月にリニューアルされ、「研究支援機能」、「学習・教育支援機能」、「地域貢献機能」の3つの機能をサービスの3本柱に据え、研究や学習・教育に必要な学術情報を広く収集・提供しています。また、附属図書館内に研究開発室を設け、図書館サービスの高度化に取り組んでいます。



附属図書館外観



1階 コモンズエリア



教育・研究活動を通じた国際貢献

三重大学では「三重の力を世界へ」のモットーの下、アジア・アフリカをはじめとする開発途上国の発展に資する国際貢献事業にも積極的に取り組んでいます。これまで延べ132名の三重大学教員が国際協力機構（JICA）専門家として開発途上国に派遣されている他、アフガニスタン、アフリカ諸国、太平洋諸国からの留学生の受入事業や、フィジー共和国での離島開発支援、モザンビークでの技術支援等の国際協力プロジェクトを実施しています。



地域の国際化支援

外国人の比率が全国で4番目に高い三重県の国際化・国際交流を支援するため、教員や留学生等の教育機関への派遣等を通じて、国際理解教育授業、外国人向け日本語教育支援、留学生のホームステイ事業等の多文化交流プログラムを実施しています。

国際交流DAYS

留学生と日本人学生の国際交流行事として、様々なイベントを実施し、三重大学のさらなる国際化を図ることを目的としています。昨年度は、留学生を対象に書道体験、十二単衣装体験、和食文化を学ぶ料理イベント、スポーツ大会、ウェルカム・パーティーなど様々な行事が開催されました。また、日本人学生を対象にJICA三重デスク協力のもと国際協力セミナーおよび相談会、世界の民族衣装の展示を行いました。

海外の同窓会を通じた交流

三重大学へ留学した学生が帰国後、同窓会を作り各地で活躍しています。定期的に交流会を開催し情報交換を行っています。



留学生への日本語・日本文化教育

留学生に対し、日本語・日本文化教育を行っています。個々のニーズと日本語能力に応じて初級から上級まで6つのコースの授業を受講することができます。また、平成21年度から地域の外国人も受講できるように日本語の授業の一部を市民開放授業として実施しています。

国際交流奨学制度

三重大学では学業成績が優秀な学生に対して、海外留学、本学が実施する国際交流事業への参加、海外協定校からの短期留学及びダブルディグリープログラムによる派遣など充実した三重大学国際交流特別奨学生制度（20名）を設けています。また、海外から優秀な大学院留学生を安定的に確保することを目的とした「三重大学私費外国人特待留学生制度」により12名を採用するなど、留学しやすい環境を整えています。そのほか、私費留学生がより良い環境で研究・学習に集中できるよう、「三重大学三重県民共済奨学金（6名採用）」をはじめとした民間からの奨学金も拡充しています。

留学生支援

国際交流事業の実施、留学生への生活支援、地域貢献活動への参加支援、日本語学習支援、日本での就職を希望する留学生に対する企業インターンシップや地域企業とのマッチングなどの就職支援、留学生研修旅行（年2回）など、様々な支援を行っています。

国際交流センター（CIER：Center for International Education and Research）

国際交流センターは、本学の国際化の要となることを目指して留学生センターを改編し、学内共同教育研究施設として平成17年に設置されました。当センターでは地域人材教育開発機構グローバル人材教育開発部門と連携して、留学生への日本語教育をはじめインターンシップ、就職支援及び日本人学生への国際教育や、海外留学、語学研修等の支援を行っています。

附属図書館

電子ジャーナルやデータベースの充実

研究活動に欠かせない学術雑誌については、ElsevierやSpringerなどの電子ジャーナル1万5千タイトルや電子ブック（Maruzen eBook Library）を導入し、学内LANにつながったパソコンから24時間利用することができます。同時に、引用文献情報データベースWeb of ScienceやSciFinderなどのデータベースも導入し、研究活動のインフラ整備を進めています。

学習環境の充実と情報リテラシー教育支援

館内にはシラバスに掲載された図書をはじめとする学習に必要な図書や雑誌を揃え、勉学に集中できる静かな閲覧席やグループ学習もできるラーニングcommons、インターネットに接続したパソコン（37台）を提供するなど、多様な利用目的に対応した学習環境を用意しています。さらに、授業ともタイアップして、OPAC（蔵書検索データベース）や各種のデータベースの検索方法についての講習会を数多く開催し、学生の情報リテラシーの向上や習得を支援しています。

地域貢献

三重大学が保有する学術資料の公開・展示や、県内の図書館等関連諸団体への学術情報の提供を通じて社会貢献を行っています。また、大学の研究・教育の成果物を電子的に蓄積・保存し、インターネットを通じて発信する学術機関リポジトリを公開しています。

研究開発室

教育の質保証を視野に入れながら、ラーニングcommonsなど教室内外の学習環境をデザインしたり、高い学習成果を得られる情報リテラシー教育を設計・運用したりするために、調査研究を行い、実務者との調整をしています。

環境・情報科学館（Mie Environmental & Informational Platform：MEIPL）

平成24年4月に開館した【環境・情報科学館】

情報・環境科学館はアカデミックcommons*の一角で、附属図書館と一体化して、学生が新しい知を創出したり共有したりする場となります。また、「世界に誇れる環境先進大学」を目指し、積極的なリーダーシップを発揮していく社会的な責任を掲げ、低炭素化社会の構築・形成過程を三重から日本、世界へ発信する中心施設となります。1階は環境教育や研究・地域コミュニティとの交流スペース、2階は全面がラーニングcommons、3階は、廊下側の壁がないオープン・スクール形式の教室（PBL演習室）として機能しています。



【環境・情報科学館】
（愛称：メープル館）

*アカデミックcommons…… ヒトやモノを含むさまざまな情報資源と交流・協働することによって、知を生み出したり、その知を共有したりする場。

2階 利用者自身がデザインする学習空間

利用者間の情報共有や新しい発想を促すために、可動式の椅子やテーブル、ホワイトボードを備えており、利用者が必要とする学習空間を自分でデザインすることができます。電子黒板や学習法に関する基本的な文献も利用できます。PCステーションでは、必要な情報資源にアクセスしたり、入手した情報を分析・整理したりできます。また、プライベート感をもって課題探究活動ができるグループ学習室、ゆっくりとくつろいだり、談話したり、休憩したりするためのソーシャル・スペースもあります。

さらに、平成30年度からは、学生の多様な課題解決を大学院生が支援する「MEIPLサポートデスク」を設置し、利用者を支援しています。ICTサポートデスクでは、PC等に関する相談を受け付けており、ラーニングサポートデスクでは、地域資料の収集・活用方法や、レポートの書き方等に関する質問に応じています。

このように、2階には学生の学びを支える充実した学習空間と人的支援の体制が整っています。



2階 ラーニング commons

3階 授業やゼミのための新しい教室空間

廊下側の壁がないオープン・スクール形式の教室空間は、それぞれのプライバシーを確保しながらも、お互いの気配を感じることによって、刺激しあえる空間となっています。可動式の椅子やテーブルを組み換えることで、多様な教育方法に対応できます。四方に壁のある教室空間では、新しいテクノロジーを活用しながら、小規模クラスの課題探究活動を促します。教員の教育活動を支援するティーチング commons も備えています。



3階 PBL 演習室

世界に誇れる環境先進大学を目指して

三重大は「世界に誇れる環境先進大学」を目指して、「環境教育」・「環境研究」の実施、地域のニーズに対応する地域貢献、業務運営の合理化を図り、CO₂排出削減の低炭素キャンパス、3R活動による循環型キャンパス、産官学民の連携による自然共生キャンパスを構築、運営します。

国際環境教育研究センター (Mie GECER: Global Environment Center for Education & Research)

国際環境教育研究センターは、本学の環境方針に基づき、環境教育・環境研究・地域貢献・業務運営の合理化に積極的に取り組む環境マネジメントシステムを主体として活動しています。

ISO14001 認証取得 (EMS構築・運営)

平成19年11月に、本学は日本の大学初となる全学一括の国際標準規格「ISO14001」認証を取得し、環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、現在は2015年度版の規格で運営しています。大学の社会的責任(USR)として、環境人材を育成する一方、環境に及ぼす負荷を最小限に食い止める環境活動を積極的に行っています。

3R活動 (Reduce/Reuse/Recycle) ・ 環境ISO学生委員会が主体となる活動

(1) Reduce (学内店舗のレジ袋ゼロ運動)

平成20年1月より生協でのレジ袋有料化を実施して99%以上の削減に成功し、平成21年10月には全国初のレジ袋ゼロのコンビニエンスストア (MINI STOP) が開店しました。

(2) Reuse (放置自転車・家電製品の再利用)

平成19年からキャンパス内の放置自転車を回収、修理して新入生や留学生に無償譲渡し、平成21年から卒業生の利用しない家電製品を回収、修理して留学生や新入生に無償譲渡しています。

(3) Recycle (古紙再生)

平成19年から古紙を回収し、三重大オリジナルのトイレットペーパーにリサイクルし、本学で使用するトイレットペーパーの約20~30%を賄っています。

産官学民の連携による町屋海岸清掃・生物多様性保全活動

本学に近隣する町屋海岸で、環境ISO学生委員会・教職員、地域住民(町屋百人衆)、地元企業、行政及び地元の小中学校との連携により、年5回海岸清掃活動及び三重県の準絶滅危惧種に指定されているハマニガナなどの海浜植物の観察会を実施し、環境教育・生物多様性保全活動を行っています。

また、平成26年度から松名瀬干潟においても三重県及び松阪市との協働により同様の活動を実施しています。



町屋海岸 (清掃活動)



松名瀬干潟 (生物観察会)

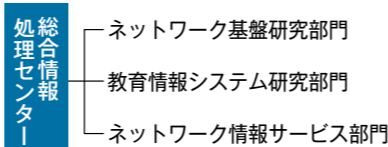
情報基盤

学術情報基盤の整備・強化を図る拠点

三重大は、電子情報受発信の拠点としての役割を担う学術情報基盤の整備と強化に取り組んでいます。

総合情報処理センター

三重大学総合情報処理センターは、ネットワーク基盤研究部門、教育情報システム研究部門、ネットワーク情報サービス部門の3部門からなり、情報システムの管理運用を行い、大学における情報基盤システムの構築ならびに維持発展のための情報基盤の戦略策定を行っています。



ネットワーク基盤

円滑な教育研究活動・事務業務に不可欠である、高速で堅牢なネットワーク環境を全学に提供しています。パソコンを無線接続するためのネットワーク「モバイルLAN」を運用しており、これを利用して個人の持ち込みパソコンを接続することができます。

情報サービス

教職員・学生のアカウントを「統一アカウント」として一元管理しており、この統一アカウントでメールなど学内の各種システムを利用できます。

いくつかの有用なソフトウェアをサイトライセンス契約しており、三重大学構成員であれば誰でもMicrosoft Office Professional Plusを使用することができる他、ウイルス対策ソフトや研究用ソフトの提供も行っています。



教育支援

教育端末室(パソコン教室)を学内に開設し、パソコンを利用する講義や学生の自習に活用できるようになっています。また、ネットワークを安全に利用するための情報セキュリティ研修会を行っています。

「モバイル情報案内システム」では、講義に関するお知らせや休講情報などを学内の電子掲示板の他、携帯電話・スマートフォンや自宅のパソコンからも確認できます。パソコン必携化に合わせて環境・情報科学館ラーニング commons にICTサポートデスクを設置し学習・教育での情報基盤活用を支援しています。



情報教育

全学部新入生対象に、三重大学の情報システムの利用法を学ぶ「情報リテラシー」や、ネットワーク社会におけるルールやマナーを学ぶ「情報倫理」の講義を実施しています。また教育用ICTツールなどの活用法を学ぶIT講習会を実施しています。

MIEUポイント

本学における環境活動を評価する仕組みとして、学生・教職員が行った省エネ活動や清掃活動などの個人における環境活動の見える化やインセンティブ制度である、MIEUポイントを導入しています。

省エネ等の環境活動をスマートフォンなどの携帯端末を用いて登録することで、ポイントを付与し、獲得ポイントに応じて、学生生活に必要な品物と交換することができます。

このMIEUポイントにより、自発的な行動を促すとともに、持続的な環境活動を促進します。





高度な医療提供と人材育成

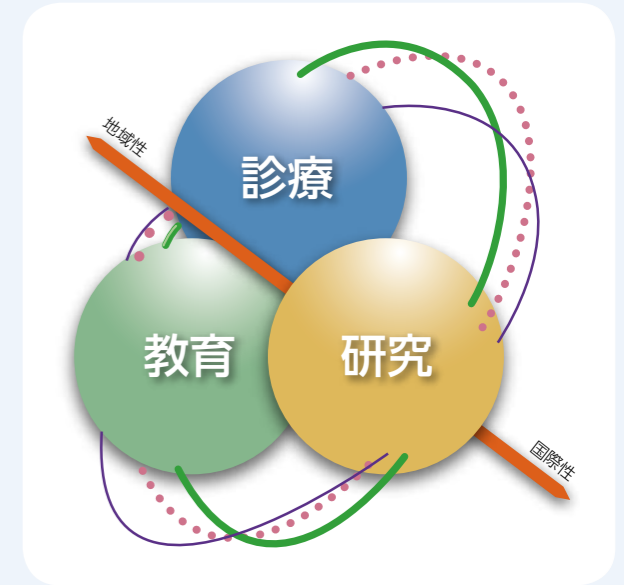
三重大学医学部附属病院の基本理念

本院は、信頼と安心が得られる地域医療の拠点として、未来を拓く診療・研究を推進し、人間性豊かな優れた医療人を育成します。

《基本方針》

- 地域の拠点病院として、安全で質の高い先進的な医療を提供します。
- 臨床研修機関として、次代の担い手となる人間性豊かな人材を育成します。
- 新しい医療を目指す臨床研究を推進し、社会に貢献します。
- 医療・医育機関との連携・支援を推進し、地域医療の発展に尽くします。
- 疾病の予防を目指した教育・研究を推進します。
- 上記の基本方針を推進するために、健全で成長性のある病院経営を行います。

この基本方針に沿って
「優秀な人材が多く集まり、やりがいのある病院」
を目指しています。



質の高い医療を提供できる病院であること

質の高い医療とはまず標準的な診断や治療を安全確実に行うことです。そのために総括的な医療安全管理部、感染制御部による医療のチェック体制を確立します。その基盤にたつて高度医療を推進します。外部の委員を加えた医療の質・倫理検討委員会において治療の妥当性を評価します。

優れた専門医を養成できる病院であること

臓器別専門診療体制を充実し高度先進医療を推進します。これを基盤とする専門医のための教育カリキュラムを確立し、優れた専門医を養成します。

臨床研究環境の整備と研究者の研究倫理研修を推進し、最先端の臨床研究を実施できる病院であること

質の高い臨床研究を推進するため臨床研究開発センターを中心とする臨床研究支援体制を充実させます。

地域医療へ貢献できる病院であること

三重県内の関連病院との連携で中心的役割を果たします。特に遠隔地病院との連携において、教育スタッフを派遣し医療レベルの確保に積極的に協力します。

病院再開発事業が完了しました。

三重大学医学部附属病院は、新病棟が2012年、新外来棟が2015年に稼働し、2018年春には駐車場・外観工事も完了して、新しい三重大学医学部附属病院が完成しました。

新外来・診療棟▶



スマートキャンパス事業

三重大学は、創エネ（つくる）・蓄エネ（ためる）、省エネ（せつやく）によるスマートキャンパスを構築、運営しています。

(1) キャンパスエネルギーマネジメント

スマートキャンパスの設備をエネルギーマネジメントシステムで最適に運用することにより、大幅にCO₂の排出を削減しています。

(2) 防災拠点としての機能

災害時においてエネルギーインフラ（電気・ガス）が停止した場合にも、再生可能エネルギーを活用することにより事前に選定した重要なエリアに安定電源を供給します。

(3) 実証結果の有効活用

得られた成果から国内の大学や業務系施設に適用できるモデルを構築します。

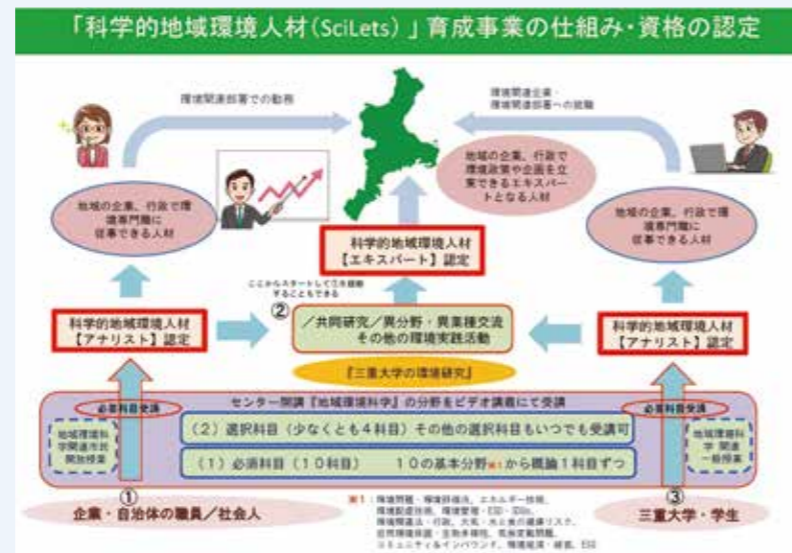
科学的地域環境人材 (SciLets) 育成事業

科学的地域環境人材育成事業は、環境を網羅的にカバーする講義群「地域環境科学」の基本10分野と選択科目の資格要件を満たした者に、「科学的地域環境人材【アナリスト】」の称号を付与するものです。忙しい社会人の便宜を図るため、大学に通学しなくても遠隔地で受講できる、eラーニング（おもにビデオ講義や情報通信技術を用いた学習形態）の仕組みを導入しています。

さらに、高度な「科学的地域環境人材【エキスパート】」の育成は、On the Job Training（業務を遂行させる中で体系的に実施する教育）による環境実践の仕組みを利用して行うため、本事業の中に環境（技術）に関する「共同研究」や、「異業種・異分野交流」のハブ機能が組み込まれています。

なお、このような学習・教育システムは三重大学独自のソーシャルネットワーク（本事業においてはSciLets（呼称：サイレッツ）と表します。）により運営され、この仕組みにより各人材は各資格取得後も横につながり、新たな知識の学習や活動を継続していくことができます。

また、本事業の有益性が社会に認められ、平成30年度には「持続可能な社会づくり活動表彰 公益社団法人環境生活文化機構会長賞」と「第1回エコプロアワード奨励賞」を受賞しました。



環境関連受賞

本学では、1年間の環境に配慮した事業活動をまとめて環境報告書として公表しており、この報告書については環境コミュニケーション大賞（環境省、地球・人間環境フォーラム）を平成18年度（第10回）から平成30年度（第22回）までに10回受賞しています。そのうち、平成25年度から平成30年度は6回連続で受賞しています。その他の大臣からの賞として、平成21年に「平成20年度容器包装3R促進環境大臣賞」（環境省）、平成25年に「第22回地球環境大賞文部科学大臣賞」（フジサンケイグループ）、平成26年に「省エネ大賞（省エネ事例部門）経済産業大臣賞」（省エネルギーセンター）、平成27年に「第17回グリーン購入大賞環境大臣賞」（グリーン購入ネットワーク）、平成28年に「平成28年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」（環境省）、平成29年に「平成29年度地域環境保全功労者表彰環境大臣賞」（環境省）を受け、これまでに5年連続6回の受賞を受けています。



平成30年度
持続可能な社会づくり活動表彰



第1回 エコプロアワード



第22回 環境コミュニケーション大賞



環境報告書2018

病棟・診療棟



職員数

令和元年5月1日現在

部局等	区分	学長	理事	監事	大学教員				小計	附属学校教員	その他職員	小計	合計
					教授	准教授	講師	助教					
学長・理事・監事		1(0)	5(0)	2(0)					8(0)			0(0)	8(0)
事務局等					1(1)				1(1)		187(67)	187(67)	188(68)
教養教育院					11(1)	3(2)	3(0)	1(1)	18(4)		8(4)	8(4)	26(8)
地域人材教育開発機構					1(1)	5(3)	4(1)	2(1)	12(6)			0(0)	12(6)
地域イノベーション推進機構					2(0)	6(0)		8(2)	16(2)		5(3)	5(3)	21(5)
地域拠点サテライト						1(0)			1(0)			0(0)	1(0)
地域創生戦略企画室					2(0)		1(1)	5(2)	8(3)		1(0)	1(0)	9(3)
国際交流センター							1(1)		1(1)			0(0)	1(1)
総合情報処理センター							1(0)		1(0)		2(1)	2(1)	5(1)
学生総合支援センター								2(0)	2(0)			0(0)	2(0)
国際環境教育研究センター								1(0)	1(0)			0(0)	1(0)
保健管理センター					2(0)		1(1)		3(1)		2(2)	2(2)	5(3)
人文学部					35(12)	22(5)	3(0)	3(3)	63(20)		8(3)	8(3)	71(23)
大学院教育学研究科					3(0)	3(1)			6(1)			0(0)	6(1)
教育学部					44(9)	20(7)	4(1)		68(17)		8(5)	8(5)	76(22)
附属幼稚園									0(0)	7(6)		7(6)	7(6)
附属小学校									0(0)	26(8)	6(4)	32(12)	32(12)
附属中学校									0(0)	26(7)		26(7)	26(7)
附属特別支援学校									0(0)	29(15)		29(15)	29(15)
大学院医学系研究科					41(9)	31(10)	13(0)	57(22)	142(41)		8(4)	8(4)	150(45)
医学部					1(1)		1(1)	10(3)	12(5)			0(0)	12(5)
附属病院					7(2)	19(0)	39(1)	129(30)	194(33)		823(651)	823(651)	1,017(684)
大学院工学研究科					39(0)	40(0)	2(0)	21(2)	102(2)		28(9)	28(9)	130(11)
大学院生物資源学研究科					44(2)	37(3)	2(1)	11(2)	94(8)		9(5)	9(5)	103(13)
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター									0(0)		20(4)	20(4)	20(4)
附属施設農場					1(0)	2(0)			3(0)			0(0)	3(0)
附属施設演習林						1(0)			1(0)			0(0)	2(0)
附属鯨類研究センター					3(0)	3(0)		1(1)	7(1)			0(0)	7(1)
附属練習船勢丸						1(0)		1(0)	2(0)		13(2)	13(2)	15(2)
大学院地域イノベーション研究科					6(0)	1(0)		2(2)	9(2)			0(0)	9(2)
総計		1(0)	5(0)	2(0)	243(38)	197(32)	75(7)	255(71)	778(148)	88(36)	1,128(764)	1,216(800)	1,994(948)

*理事のうち1名は非常勤職員。 *監事のうち1名は非常勤職員。 *教員数には、休職者及び育児休業者を含まず、任期付職員(代替職員)を含む。
* ()内は女性数を内数で示す。 *附属学校教員には特別教員を含む。

寄附講座・産学官連携講座(医学系研究科・医学部)

令和元年5月1日現在

講座	区分	大学教員				小計	非常勤教員	合計
		教授	准教授	講師	助教			
認知症医療学講座	寄附講座				1(1)	1(1)		1(1)
先進医療外科学講座	寄附講座				1(0)	1(0)		1(0)
スポーツ整形外科学講座	寄附講座			1(0)		1(0)		1(0)
亀山地域医療学講座	寄附講座			1(0)	2(0)	3(0)		3(0)
名張地域医療学講座	寄附講座				2(0)	2(0)		2(0)
三重県総合診療地域医療学講座	寄附講座				3(0)	3(0)		3(0)
神経・筋病態学講座	寄附講座	1(0)				1(0)		1(0)
先進画像診断学講座	寄附講座	1(0)				1(0)		1(0)
周産期新生児発達医学講座	寄附講座	1(1)				1(1)		1(1)
腹部救急地域連携学講座	寄附講座				1(0)	1(0)		1(0)
先進がん治療学講座	寄附講座	1(0)				1(0)		1(0)
脊髄末梢神経低侵襲外科学講座	寄附講座	1(0)				1(0)		1(0)
循環器・救命救急地域連携学講座	寄附講座			1(0)		1(0)		1(0)
脊椎集学治療学講座	寄附講座				1(0)	1(0)		1(0)
遺伝子・免疫細胞治療学講座	産学官連携講座	2(0)				2(0)		2(0)
個別化がん免疫治療学講座	産学官連携講座	1(0)	1(0)			2(0)	1(0)	3(0)
臨床創薬研究学講座	産学官連携講座				1(0)	1(0)		1(0)
システム薬理学講座	産学官連携講座					0(0)	1(0)	1(0)
合計		8(1)	1(0)	3(0)	12(1)	24(2)	2(0)	26(2)

* ()内は女性数を内数で示す。

寄附研究部門(医学部附属病院)

令和元年5月1日現在

研究部門	区分	大学教員				小計	非常勤教員	合計
		教授	准教授	講師	助教			
地域連携学寄附研究部門	寄附研究部門			2(0)	1(1)	3(1)		3(1)
東紀州地域医療学寄附研究部門	寄附研究部門				1(0)	1(0)		1(0)
外科専門医育成支援寄附研究部門	寄附研究部門	1(0)				1(0)		1(0)
合計		1(0)	0(0)	2(0)	2(1)	5(1)	0(0)	5(1)

* ()内は女性数を内数で示す。

学生定員及び現員 () 内は、外国人留学生を内数で示す。

令和元年5月1日現在

Table with columns for department (人文学部, 教育学部, 医学部, 工学部, 生物資源学部), faculty, and enrollment counts for 1st, 2nd, and 3rd years.

Table with columns for 4th, 5th, and 6th years, and total enrollment counts, including gender and percentage breakdowns.

Table showing enrollment for Graduate School (大学院) across various departments like 人文社会科学研究科, 教育学研究科, etc.

Table showing enrollment for Graduate School (大学院) with gender and percentage breakdowns for each department.

教育学部附属学校の定員等

令和元年5月1日現在

Table showing enrollment and student numbers for affiliated schools (附属幼稚園, 附属小学校, etc.) by year.

奨学生数

平成31年3月現在

Table showing the number of scholarships (奨学生数) by department and type of scholarship.

令和元年度入学志願者数及び入学者数

平成31年4月1日現在

区分	定員	志願者数			合格者数			入学者数				
		男	女	計	男	女	計	男	女	計		
学部	人文学部	245	(17) 558	(12) 509	(29) 1,067	(4) 146	(3) 143	(7) 289	(2) 132	(1) 129	(3) 261	
	教育学部	200	(3) 499	(1) 621	(4) 1,120	(0) 82	(0) 135	(0) 217	(0) 79	(0) 129	(0) 208	
	医学部	205	341	462	803	85	123	208	84	121	205	
	工学部	400	(30) 1,341	(3) 231	(33) 1,572	(7) 379	(2) 65	(9) 444	(2) 346	(1) 61	(3) 407	
	生物資源学部	260	(0) 539	(0) 366	(0) 905	(0) 176	(0) 129	(0) 305	(0) 164	(0) 114	(0) 278	
	合計	1,310	(50) 3,278	(16) 2,189	(66) 5,467	(11) 868	(5) 595	(16) 1,463	(4) 805	(2) 554	(6) 1,359	
大学院	人文社会科学研究科	15	(5) 9	(4) 8	(9) 17	(4) 6	(3) 7	(7) 13	(3) 5	(2) 6	(5) 11	
	教育学研究科	教育科学専攻	27	(2) 19	(1) 8	(3) 27	(2) 15	(1) 7	(3) 22	(2) 15	(1) 6	(3) 21
		教職実践高度化専攻	14	(0) 9	(0) 6	(0) 15	(0) 9	(0) 6	(0) 15	(0) 7	(0) 6	(0) 13
	医学系研究科	修士	12	(0) 4	(0) 3	(0) 7	(0) 3	(0) 3	(0) 6	(0) 3	(0) 3	(0) 6
		前期(看護)	11	(0) 2	(0) 3	(0) 5	(0) 2	(0) 3	(0) 5	(0) 2	(0) 3	(0) 5
		後期(看護)	3	(0) 0	(1) 4	(1) 4	(0) 0	(1) 3	(1) 3	(0) 0	(1) 3	(1) 3
		博士	45	(1) 25	(0) 11	(1) 36	(1) 24	(0) 11	(1) 35	(1) 24	(0) 11	(1) 35
	工学研究科	前期	216	(6) 218	(0) 24	(6) 242	(3) 205	(0) 24	(3) 229	(3) 197	(0) 24	(3) 221
		後期	16	(2) 6	(0) 0	(2) 6	(2) 6	(0) 0	(2) 6	(1) 5	(0) 0	(1) 5
	生物資源学研究科	前期	88	(6) 77	(2) 22	(8) 99	(5) 69	(2) 20	(7) 89	(5) 62	(2) 18	(7) 80
		後期	12	(1) 3	(0) 1	(1) 4	(1) 3	(0) 1	(1) 4	(1) 3	(0) 1	(1) 4
	地域イノベーション学研究科	前期	15	(2) 15	(3) 3	(5) 18	(2) 14	(2) 2	(4) 16	(1) 12	(1) 1	(2) 13
		後期	6	(0) 5	(0) 0	(0) 5	(0) 5	(0) 0	(0) 5	(0) 5	(0) 0	(0) 5
	合計	480	(25) 392	(11) 93	(36) 485	(20) 361	(9) 87	(29) 448	(17) 340	(7) 82	(24) 422	

() 内は、外国人留学生を内数で示す。

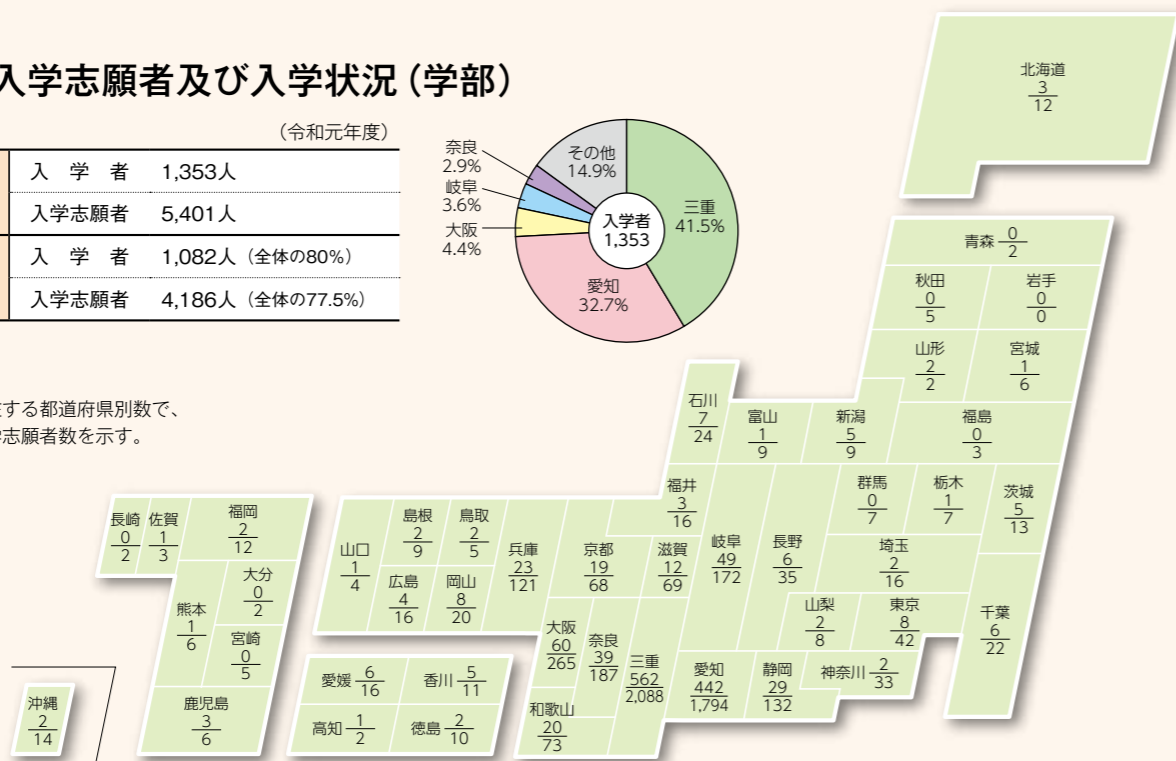
都道府県別入学志願者及び入学状況(学部)

(令和元年度)

全 体	入 学 者	1,353人
	入学志願者	5,401人
東海4県の計 (三重、愛知、岐阜、静岡)	入 学 者	1,082人 (全体の80%)
	入学志願者	4,186人 (全体の77.5%)

※外国人留学生を除く。

図は、出身高等学校等が所在する都道府県別数で、上段は入学者数、下段は入学志願者数を示す。



上記のほか= 高等学校卒業程度認定試験合格者 2/14、帰国生徒 2/4、在外認定 0/0、外国の諸学校 0/0

平成30年度卒業生数・修了者数・学位授与数

学部

() 内は、女子学生数を内数で示す。

学部名	学科名	卒業生数	
		平成30年度	累 計
人文学部	文化学科	(88) 114	(5,083) 9,489
	法律経済学科	(86) 188	
	社会科学科	(0) 0	
	小 計	(174) 302	
教育学部	学校教育教員養成課程	(116) 195	(10,495) 19,064
	情報教育課程	(0) 0	
	生涯教育課程	(0) 1	
	人間発達科学課程	(23) 31	
小 計	(139) 227		
医学部	医学科	(43) 119	(2,434) 6,006
	看護学科	(73) 77	
	小 計	(116) 196	
工学部	機械工学科	(3) 94	(1,366) 15,604
	電気電子工学科	(6) 86	
	分子素材工学科	(21) 99	
	建築学科	(25) 52	
	情報工学科	(4) 47	
	物理工学科	(3) 40	
	小 計	(62) 418	
生物資源学部	資源循環学科	(29) 68	(2,948) 7,602
	共生環境学科	(23) 76	
	生物圏生命科学科	(49) 103	
	小 計	(101) 247	
(旧農学部)	—	(222) 6,978	
(旧水産学部)	—	(56) 944	
①合計		(592) 1,390	(22,604) 65,687

専攻科・別科

() 内は、女子学生数を内数で示す。

区分	修了者数	
	平成30年度	累 計
専 攻 科	特別支援教育特別専攻科	(53) 74
	(旧)特殊教育特別専攻科	(197) 352
	(旧)教育専攻科	(19) 78
別 科	農業別科	(18) 609
③合計	(287) 1,113	
総計①+②+③	(25,390) 79,721	

医療技術短期大学部

() 内は、女子学生数を内数で示す。

学 科	卒業生数	
	平成30年度	累 計
看護学科	(704) 715	

大学院

() 内は、女子学生数を内数で示す。

研究科	課 程	修了者数	
		平成30年度	累 計
人文社会科学研究科	修 士	(6) 10	(219) 422
	博士前期	(8) 20	(493) 1,055
教育学研究科	修 士	(8) 20	(493) 1,055
	専門職学位	(8) 15	(8) 15
医学系研究科	修 士	(4) 12	(254) 402
	博士前期	(9) 9	(16) 17
	博 士	(10) 34	(202) 1,301
工学研究科	博士前期	(1) 1	(1) 1
	博士後期	(19) 216	(413) 4,667
	博士後期	(2) 7	(32) 328
生物資源学研究科	博士前期	(24) 77	(704) 2,485
	博士後期	(1) 10	(78) 310
地域イノベーション学研究科	博士前期	(1) 10	(25) 95
	博士後期	(1) 1	(4) 22
工学研究科	修 士	—	(31) 1,164
生物資源学研究科	修 士	—	(6) 152
(旧) 農学研究科	修 士	—	(12) 378
(旧) 水産学研究科	修 士	—	(1) 107
②合計		(94) 422	(2,499) 12,921

学位授与数

() 内は、女子学生数を内数で示す。

専攻分野	修 士		博 士		
	平成30年度	累 計	専攻分野	平成30年度 累 計	
人文学	(4) 7	(131) 220	医 学	課程修了 (10) 34	(202) 1,301
	(2) 3	(88) 202		論文提出 (1) 10	(105) 896
社会科学	(8) 20	(493) 1,055	看護学	課程修了 (1) 1	(1) 1
	(3) 10	(104) 242		論文提出 (1) 3	(2) 37
教育学	(8) 15	(8) 15	工 学	課程修了 (2) 7	(32) 328
	(3) 10	(104) 242		論文提出 (1) 3	(2) 37
医科学	(10) 11	(166) 177	学 術	課程修了 (2) 11	(82) 332
	(19) 216	(444) 5,831		論文提出 (0) 8	(15) 103
生物資源学	(24) 77	(710) 2,637	合 計	(17) 74	(439) 2,998
	(1) 10	(25) 95			
(旧) 農学	—	(12) 378			
(旧) 水産学	—	(1) 107			
合計	(79) 369	(2,182) 10,959			

※1: 修士(工学)の累計学位授与者数は工学研究科(前期)の修了者数累計と工学研究科(修士)の累計修了者数1,164名(31)を足す。

※2: 修士(生物資源学)の累計学位授与者数は生物資源学研究科(前期)の修了者数累計と生物資源学研究科(修士)の累計修了者数152名(6)を足す。

外国人留学生数(学部・研究科等別)

学部・研究科等別内訳 ()内は、女子学生数を内数で示す。

令和元年5月1日現在

Table with columns for 区分, 学部, 修 士, 博 士, 計. Rows include 人文学部・人文社会科学研究科, 教育学部・教育学研究科, etc.

国別内訳 ()内は、女子学生数を内数で示す。

令和元年5月1日現在

Table with columns for 地域・国名, 学 部, 大学院, 国際交流センター, 計. Rows include 中国, インドネシア, 韓国, etc.

平成30年度国際交流事業一覧(経費助成対象)

Table with columns for 部局名, 事業名(申請時の名称), 対象国, 申請代表者. Rows include 教養教育院, 人文学部, 教育学部, etc.

国際交流

平成30年度外国人研究者受入れ数

Table with columns for 外国人研究者, 19名

大学間協定(24カ国・地域, 63大学・機関) ※ ()内は、学部間協定の締結日を示す。

Table with columns for 大学名, 国名, 協定締結日. Rows include 江蘇大学, チェンマイ大学, タスマニア大学, etc.

学部間協定(26カ国, 53大学・機関)

Table with columns for 学部, 大学名, 国名, 協定締結日. Rows include 教養教育院, 人文学部, 教育学部, etc.

平成30年度海外留学者数

Table with columns for 協定校等への留学(3か月以上), 30名, 大学が提供する海外プログラム(1~4週間)等, 395名

平成31年4月1日現在

Table with columns for 大学名, 国名, 協定締結日. Rows include ハルオレオ大学, ハワイバシフィック大学, シャルジャ大学, etc.

平成31年4月1日現在

Table with columns for 学部, 大学名, 国名, 協定締結日. Rows include 大学院医学系研究科・医学部, 人文学部, 教育学部, etc.

附属図書館

利用統計 (平成30年度)

入館者総数	322,306人
貸出者数	36,791人
貸出冊数	64,670冊
文献複写	1,485件
図書館間相互貸借	1,227冊
借出	702冊
借受	702冊

蔵書数 平成31年3月31日現在

区分	和書(冊)	洋書(冊)	計(冊)
総記	42,361	7,353	49,714
哲学	38,513	9,598	48,111
歴史	56,636	5,419	62,055
社会科学	155,728	21,745	177,473
自然科学	128,306	45,347	173,653
工学	55,847	15,456	71,303
産業	50,347	9,631	59,978
芸術	29,374	3,008	32,382
語学	24,573	10,581	35,154
文学	59,937	18,451	78,388
雑誌	78,301	83,021	161,322
合計	719,923	229,610	949,533

学外者利用統計 (平成30年度)

登録者数	382人	登録者数(人)	74
貸出冊数	3,428冊	大学の研究者	9
入館者数	6,125人	大学以外の研究者	8
		その他・一般市民	291

学術刊行物 (平成30年度)

学部名	刊行物名	発行部数(部)	発行回数(回)
人文学部	人文論叢	150	年1
	三重大大学院人文社会科学部地域交流誌「TRIO-三重の文化・社会・自然-」	2,000	年1
教育学部	三重大教育学部研究紀要	web公開のみ	年1
医学部	三重看護学誌	120	年1
工学部	三重大工学部研究報告	web公開のみ	年1
生物資源学部	三重大大学院生物資源学研究所紀要	600	年1
	三重大フィールド研究・技術年報	200	年1
地域イノベーション学研究科	Proceedings of the International Workshop on Regional Innovation Studies	300	年1

附属病院

診療科等

診療科	病床数	診療状況			
		入院		外来	
		患者延数(人)	1日平均患者数(人)	患者延数(人)	1日平均患者数(人)
血液内科		8,946	24.5	8,484	34.8
腫瘍内科		5,000	13.7	5,228	21.4
皮膚科		7,097	19.4	16,139	66.1
眼科		7,188	19.7	29,400	120.5
心臓血管外科・(小児循環器)		4,751	13.0	3,165	13.0
呼吸器外科		2,379	6.5	2,554	10.5
呼吸器内科		7,472	20.5	11,436	46.9
糖尿病・内分泌内科		1,773	4.9	14,084	57.7
循環器内科		11,027	30.2	16,708	68.5
腎臓内科		3,312	9.1	7,906	32.4
総合内科		575	1.6	555	2.3
肝胆臓・移植外科		13,217	36.2	7,288	29.9
消化管外科		10,246	28.1	9,860	40.4
小児外科		1,766	4.8	2,372	9.7
消化器・肝臓内科		12,131	33.2	20,609	84.5
脳神経外科		8,488	23.3	8,785	36.0
脳神経内科		6,970	19.1	10,484	43.0
整形外科		12,537	34.3	15,919	65.2
形成外科		1,817	5.0	3,220	13.2
放射線科		4,099	11.2	14,444	59.2

平成30年度患者数調

診療科	病床数	診療状況			
		入院		外来	
		患者延数(人)	1日平均患者数(人)	患者延数(人)	1日平均患者数(人)
産科婦人科		12,171	33.3	16,871	69.1
乳腺外科		3,407	9.3	14,038	57.5
小児科・(小児循環器)		9,423	25.8	6,289	25.8
腎泌尿器外科		9,796	26.8	19,433	79.6
歯科口腔外科		4,176	11.4	20,948	85.9
精神科神経科	30	7,189	19.7	16,945	69.4
耳鼻咽喉・頭頸部外科		12,945	35.5	15,772	64.6
麻酔科		0	0.0	6,636	27.2
総合診療科		0	0.0	2,880	11.8
総合集中治療センター(救急科)		4,554	12.5	836	3.4
周産母子センター		16,356	44.8	0	0.0
リウマチ膠原病センター		994	2.7	3,295	13.5
緩和ケア科		0	0.0	21	0.1
感染症内科		0	0.0	31	0.1
高度生殖医療センター		0	0.0	7,951	32.6
遺伝子診療科		0	0.0	109	0.4
共通病床	655				
合計	685	211,802	580.3	340,695	1,396.3

※総合集中治療センター(救急科)患者延数は救急科患者数のみを計上
 ※外来の患者延数および一日平均患者数は、外来日数244日で計上
 ※肝胆臓・移植外科に一般外科患者数を含む
 ※平成30年度より一般病棟は共通病床化したため診療科固有の病床は保有しない

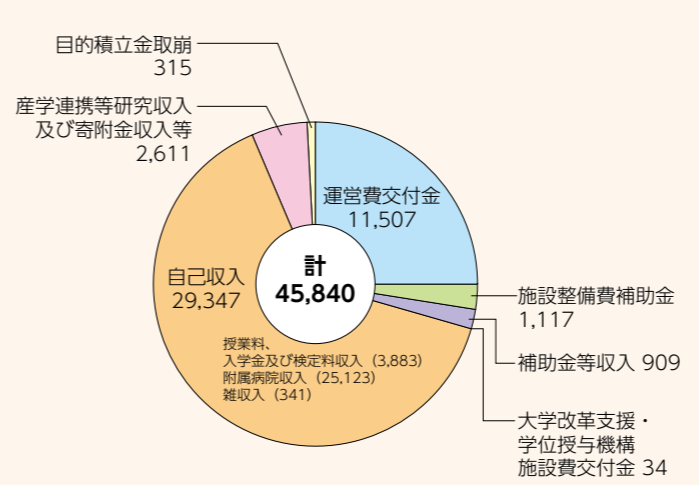
診療施設等

- 総合診療科
- 総合内科
- 循環器内科
- 血液内科
- 消化器・肝臓内科
- 脳神経内科
- 呼吸器内科
- 腫瘍内科
- 腎臓内科
- 糖尿病・内分泌内科
- 感染症内科
- 一般外科
- 消化管外科
- 肝胆臓・移植外科
- 心臓血管外科
- 呼吸器外科
- 小児外科
- 整形外科
- 産科婦人科
- 小児科
- 精神科神経科
- 皮膚科
- 腎泌尿器外科
- 眼科
- 耳鼻咽喉・頭頸部外科
- 脳神経外科
- 形成外科
- 放射線科
- 病理診断科
- ケノム診療科
- 麻酔科
- 緩和ケア科
- 救急科
- 歯科口腔外科
- 総合集中治療センター
- 周産母子センター
- 乳腺センター
- 血管ハートセンター
- 高度生殖医療センター
- リウマチ・膠原病センター
- 中央部門
- 中央検査部
- 中央手術部
- 麻酔科
- 中央放射線部
- 中央材料部
- 輸血・細胞治療部
- 集中治療部
- 病理部
- 光学医療診療部
- 血液浄化療法部
- リハビリテーション部
- 栄養診療部
- 臨床工学部
- 外来化学療法部
- 肝炎相談支援センター
- 臓器移植センター
- 口腔ケアセンター
- 小児トータルケアセンター
- 認知症センター
- 緩和ケアセンター
- 臨床研究開発センター
- ガンセンター
- AIセンター
- 広報センター
- CCUネットワーク支援センター
- 疫学センター
- 災害医療センター
- 国際医療支援センター
- 総合サポートセンター
- チーム医療推進センター
- 支援部門
- 医療情報管理部
- 臨床研修・キャリア支援部
- オペターメイド医療部
- 医療安全管理部
- 感染制御部

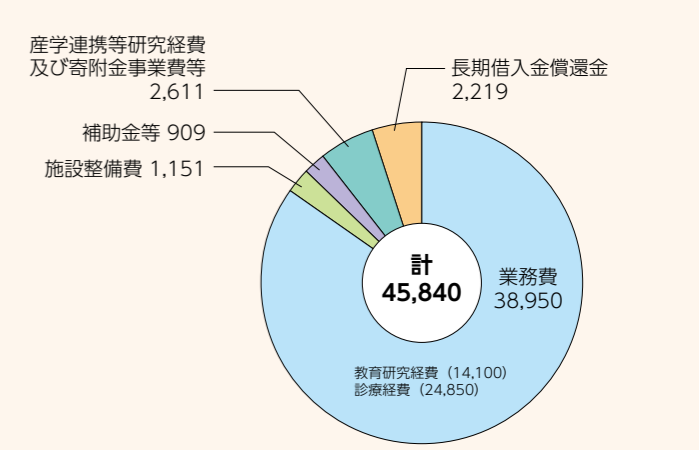
平成31年4月1日現在

令和元年度予算

収入 (単位: 百万円)



支出 (単位: 百万円)



平成30年度科学研究費助成事業及び民間等との共同研究等受入れ状況

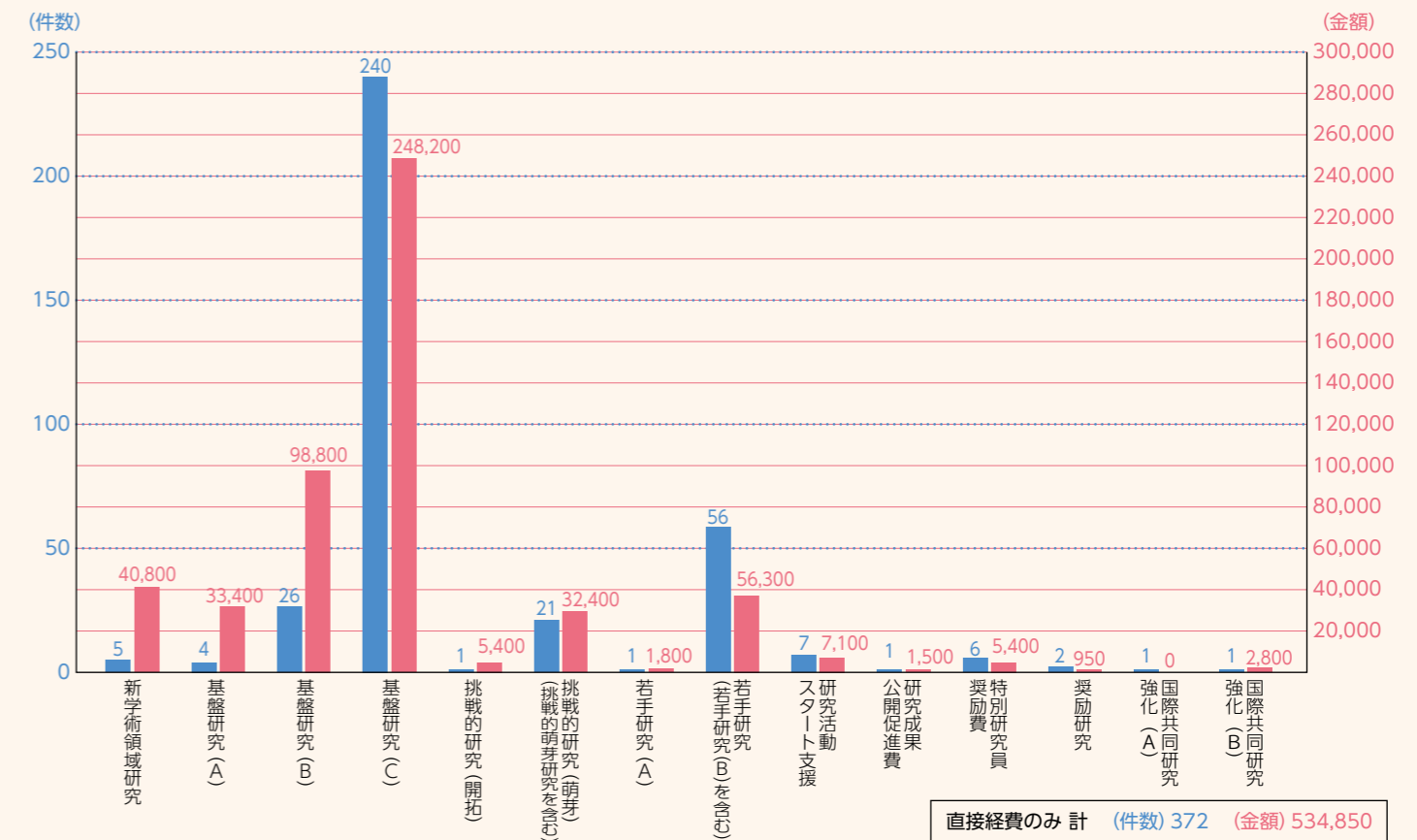
民間企業等との共同研究

(単位: 千円) (千円未満切り捨て)

区分	件数	金額
民間等との共同研究	333	490,864
受託研究	183	827,059
奨学金寄附金	1,197	749,712
合計	1,713	2,067,635

科学研究費助成事業

(単位: 千円) (千円未満四捨五入)



直接経費のみ 計 (件数) 372 (金額) 534,850



厚生保健施設等

厚生保健施設			令和元年5月1日現在
名称	建物延面積(㎡)	備考	
保健管理センター	549		
第一食堂	1,248	収容定員 750人	
第二食堂	1,012	〃 296人	
翠陵会館	1,762	〃 75人 (食堂)	

体育施設及び課外活動施設

体育施設及び課外活動施設				令和元年5月1日現在
名称	面積等(㎡)	名称	面積等(㎡)	
第一体育館	フロアー等	弓道場(6人立)	396	
	柔道場	第二弓道場(8人立)	360	
	剣道場	馬場及び観覧	5,030	
第二体育館	フロアー等	アーチェリー場	3,849	
	柔道場	ハンドボール場	4,603	
	空手道場	ボート艇庫	223	
屋内運動場	733	課外活動用車庫	100	
陸上競技場(400mトラック)	23,001	課外活動共用施設	480	
野球場	1面	学内合宿所	198	
サッカー・ラグビー場	1面	文化系サークル共用施設	352	
テニスコート	10面	体育系サークル共用施設	174	
第一体育練習場	154	課外活動用シャワー室	19	
第二体育練習場	153	総合運動場管理室	120	
プール(50m)	2,328	永井記念トレーニングルーム	106	

土地・建物

地区	部局等	土地(㎡)	建物(㎡)
上浜地区	事務局		4,512
	学内共同教育研究施設		13,102
	保健管理センター		549
	附属図書館		10,411
	教養教育院		12,835
	人文学部		5,295
	教育学部		15,356
	附属教職支援センター		790
	医学部		33,842
	附属病院		72,551
	工学部		29,741
	生物資源学部		32,529
	地域イノベーション研究開発拠点		4,764
	体育施設		6,575
	講堂(三翠ホール)		4,084
	外国人教師等宿泊施設		436
	職員宿舎		1,331
女子学生寄宿舎		3,382	
外国人留学生会館		1,221	
外国人留学生寄宿舎		3,428	
学内共同利用施設		16,827	
その他		6,386	
計		528,040	279,947

練習船「勢水丸」				令和元年5月1日現在
全長	型幅	型深さ	総トン数	
50.90m	8.60m	3.75m	318 t	
主機関	航海速度	定員	竣工	
1基	12.0Kt	44人	平成21年1月30日	

寄宿舎				令和元年5月1日現在
名称	建物延面積(㎡)	備考		
男子学生寄宿舎(安濃津寮)	3,851	収容定員 109人		
女子学生寄宿舎(清和寮)	1,245	〃 60人		
国際女子学生寄宿舎(碧海寮)	2,137	〃 75人 (日本人学生 50人 留学生 25人)		
外国人留学生会館	1,221	单身室 30室 夫婦室 5室		
外国人留学生寄宿舎	3,428	収容定員 175人		

地区	部局等	土地(㎡)	建物(㎡)
観音寺地区	附属幼稚園		953
	附属小学校	3,403	6,503
	附属中学校	*91,703	5,728
	附属特別支援学校		3,509
	職員宿舎		2,303
計		3,403	18,996
その他地区	附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター		
	附帯施設農場	353,179	7,276
	附帯施設演習林	4,569,562	1,421
	附帯施設水産実験所	35,649	1,120
	実習船基地	1,356	574
	ボート艇庫	*241	223
	男子学生寄宿舎	7,966	3,851
職員宿舎	12,537	8,535	
計		4,980,249	23,000
合計		5,511,692	321,943
		*91,944	

令和元年5月1日現在

建物(㎡)はのべ床面積を示す。
*借受地を示す。

地域との相互友好協力に関する協定等

平成31年4月1日現在

締結先等	締結日
◆国の機関	
国土交通省中部地方整備局	H23.12.19
◆三重県	
三重県との災害対策相互協力協定	H17.12.21
三重県との災害対策相互協力細目協定	H19.03.20
三重県科学技術振興センター	H19.03.23
三重県との「医療」分野における連携に関する協定	H22.01.29
三重県(防災危機管理部)	H22.05.26
三重県との実演芸術の振興等にかかる連携に関する協定	H25.09.12
三重県総合博物館との相互協力協定	H26.02.26
三重県とのみえ防災・滅災センター設置に関する協定	H26.04.01
三重県との国際会議の誘致に関する協定	H28.11.22
◆市町との相互友好協力等に関する協定	
尾鷲市	H14.12.02
四日市市	H15.10.07
亀山市	H16.01.27
鳥羽市	H16.03.22
朝日町	H16.06.09
志摩市	H17.06.21
伊賀市	H18.01.23
津市	H21.02.20
鈴鹿市	H22.06.30
伊勢市	H23.01.27

締結先等	締結日
桑名市	H25.07.01
松阪市	H25.08.29
南伊勢町	H27.06.02
玉城町	H28.10.05
木曾岬町	H29.01.16
明和町	H29.01.19
東員町	H29.01.23
大台町	H29.02.14
紀北町	H29.02.14
名張市	H29.02.20
熊野市	H29.02.21
御浜町	H29.02.21
紀宝町	H29.02.21
多気町	H29.02.24
度会町	H29.03.27
菟野町	H29.03.28
いなべ市	H29.03.30
川越町	H29.03.30
大紀町	H29.03.31
◆教育・研究機関等	
和歌山大学	H16.11.30
鈴鹿医療科学大学	H19.06.22
三重県教育委員会	H19.11.30
戦略的連携支援事業	H20.09.26
朝日大学	H22.02.03
名古屋大学・愛知教育大学	H24.04.24
立命館大学	H25.08.28
藤田保健衛生大学	H26.12.03

締結先等	締結日
三重県獣医師会	H27.03.27
紀伊山系における大規模土砂災害に係る技術、研究開発及び教育の発展を目的とした連携・協力協定	H27.03.27
三重県内の高等教育機関と三重県との「高等教育コンソーシアムみえ」に関する協定	H28.03.29
東海地区国立大学法人の大規模災害対応に関する協定	H29.06.14
鳥羽市立海の博物館指定管理団体・公益財団法人東海水産科学協会	H31.03.18
◆企業	
(株)オートネットワーク技術研究所	H17.05.25
中部電力株式会社	H17.09.14
富士電機(株)	H18.02.22
(株)百五総合研究所、(株)百五銀行	H18.03.10
日本政策投資銀行	H18.03.10
(株)岡三ホールディングス	H18.06.05
(株)三重銀行、(株)三重銀総研	H19.05.28
三井住友信託銀行(株)	H19.11.01
(株)第三銀行	H21.04.20
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)	H21.07.09
JAグループ三重	H21.11.12
(株)シーエナジー	H23.12.22
日本メナード化粧品(株)	H27.03.09
(株)日本政策金融公庫 津支店	H28.03.31
(株)モビリティランド	H28.11.18

公開講座等(平成30年度)

公開講座等

開催部局等	講座等	件数	総参加者数(概算)
人文学部	市民講座忍者・忍術学講座「江戸の建設と服部半蔵・伊賀者」他	94	12,842
教育学部	第16回 青少年のための科学の祭典三重大学大会 他	26	5,522
医学部・附属病院	三重大学病院市民県民公開講座「がん最先端医療」他	169	11,006
工学部	第10回「夏休みものづくり・体験セミナー」他	21	1,148
生物資源学部	平成30年度公開講座「次世代農業のための農業工学」他	34	1,146
地域イノベーション学研究科	第10回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ(IWRIS2018)	1	200
教養教育院	教養教育院公開講座 他	5	354
その他	みえアカデミックセミナー2018 他	512	29,196
計		862	61,414

教員免許状更新講習

領域名	講習名	件数	総参加者数(概算)
必修領域	教育の最新事情1 他	17	998
選択必修領域	三重県の特別支援教育の課題 他	32	935
選択領域	平家物語の人物造型 一清盛・重衡・宗盛・知盛 他	136	2,900
計		185	4,833

出前授業(高等学校対象)

開催学部	授業名	件数	総参加者数(概数)
人文学部	暮らしのなかの権利を考えてみようー地方自治論という視点からー 他	25	1,069
教育学部	学びを高める心理学 他	4	206
医学部	シミュレーションを用いた体験型医学医療教育ー生理、解剖から、最新外科手術まで 他	20	461
工学部	未来の炭素材料・ナノカーボンの挑戦 他	20	790
生物資源学部	クジラやイルカのくらし 他	6	183
計		75	2,709

三重大学地域貢献活動支援

(平成30年度)

活動代表者			活動テーマ	自治体実施先 (83自治体)
番号	所属	氏名		
1	人文学部	塚本 明	海女漁村の歴史的古文書の調査研究～志摩市越賀郷蔵文書の文化財指定に向けて～	志摩市
2	人文学部	森 久綱	エコフィードの利活用による地域酪農・畜産の振興	三重県
3	教育学部	伊藤 信成	東紀州地域の星空の観光資源化(神々が愛した星空発信プロジェクト)	熊野市
4	教育学部	魚住 明生	三重県発、科学技術に関わる地域人材を育成する産学官連携プログラムの実施	三重県、津市、四日市市
5	教育学部	須曾野仁志	「論理的思考能力を育成するプログラミング学習の教材開発と東紀州地域での支援活動」	尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町
6	教育学部	平賀 伸夫	三重大学隣接中学校区の学校園における学習及び活動支援	津市
7	教育学部	大野 恵理	「東紀州地域における小学校外国語(英語)教育システム開発と支援活動」	尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町
8	教育学部	市川 俊輔	科学的思考能力獲得のための高校生の探究活動の指導	三重県
9	教育学部	瀬戸美奈子	桑名市における不登校の未然防止の研究	桑名市
10	医学系研究科	山崎 英俊	歯科のない病院における口腔ケアの現状の把握と標準化の試み	三重県
11	医学系研究科	若林 英樹	地域社会参加型研究を通して地域の課題解決に取り組む	東員町
12	医学系研究科	市川 周平	地域住民の就労と治療の両立を促進するためのリテラシー教育プログラムの開発と、地域での展開	名張市
13	医学部附属病院	矢野 裕	まず予防!家族で取り組む糖尿病発症予防	三重県
14	医学部・医学系研究科(自然科学系技術部)	中川 泰久	日常生活における身近なものや学校授業での知識をリンクさせる事の出来る科学実験	津市
15	工学研究科	富岡 義人	町立小・中学校および公共施設の協調的運営とその建築的整備に関する研究	東員町
16	生物資源学研究科	中井 毅尚	三重県の中大規模木造建築設計者の育成と空き家対策	三重県
17	生物資源学研究科	酒井 俊典	伊賀地域における農地地すべり概成判断に向けた支援活動	三重県
18	地域イノベーション学研究科	三宅 秀人	伊勢市の一次産業に関する課題抽出	伊勢市
19	地域イノベーション学研究科	矢野 竹男	地域に根ざした人的並びに生物的資源の有効活用 →大台町の地域観光施設を中心拠点とした健康長寿対策に関わる人材育成・再教育の支援	大台町
20	教養教育院	福田 知子	三重大学平倉演習林で採集された昆虫標本の市民によるカタログ化と成果発信	三重県
21	地域人材教育開発機構	松岡知津子	地域日本語ボランティア教師用教材「日本語ボランティアこれだけは! (仮)」の開発	津市
22	地域イノベーション推進機構	石河 秀樹	三重大学地域イノベーション推進機構先端科学研究支援センター動物実験施設と久居農林高校との実験動物飼育に関するインターンシップと校外学習の試み	三重県
23	工学研究科・地域イノベーション推進機構	川口 淳	地方自治体における防災・減災に関する地域課題解決のための活動支援	三重県、29市町
24	地域イノベーション推進機構	青木 正晴	地域防災課題解決に向けた地域実践活動の支援	三重県、伊勢市、松阪市、伊賀市
25	地域拠点サテライト	山本 好男	中山間地の集落機能に関する調査と連携活動	伊賀市
26	人文学部	田中 綾乃	三重県におけるアートマネジメント養成プログラムの開発	三重県
27	教育学部	林 朝子	外国人児童生徒の学びの継続を目指す支援活動 →キャリア形成につながる大学見学ツアーの実施	津市
28	医学系研究科	竹村 洋典	「地域でのアクションリサーチで、健康増進を改善する」	名張市
29	工学研究科	元垣内教司	光技術による産学官の連携と地域産業の振興	三重県
30	生物資源学研究科	関谷 信人	三重大学オリジナル酒米品種「弓形穂」を活用した多気町地酒ブランド作りへの貢献	多気町
31	生物資源学研究科	松井 隆宏	東紀州サテライトを拠点とした地域プロジェクト型インターンシッププログラムの開発	三重県
32	生物資源学研究科	亀岡 孝治	東紀州におけるICTを援用した科学的柑橘栽培支援	三重県
33	生物資源学研究科	岡島 賢治	宮川用水のバイブライン内のタイワンシジミ詰まり問題解決に向けて	三重県
34	生物資源学研究科	飯島 慈裕	津のお米の味と品質を裏付ける生育診断・環境評価手法の開発と実践	津市
35	生物資源学研究科	伊藤 良栄	地域の農業水利施設管理の高度化と標準化言語を利用した汎用化	三重県、鈴鹿市
36	生物資源学研究科	吉松 隆夫	志摩の里海と海女文化を支える磯根資源の増殖のための取り組み	三重県
37	地域拠点サテライト	山本 康介	東紀州サテライトを拠点とした熊野地域の小中高の児童・生徒に対する「木育」プログラムの開発と実施	三重県
38	教育学部	岡野 昇	津市における「子どもの体力・運動能力向上のための推進活動」と「教員の学びの支援ネットワークの構築」	津市
39	工学研究科	浅野 聡	「伊勢河崎商人館」における展示計画を通じた景観まちづくり活動の推進	伊勢市
40	生物資源学研究科	野中 寛	三重県のセルロースナノファイバー(CNF)事業の活性化支援	三重県
41	生物資源学研究科	立花 義裕	地元テレビ局や気象予報士との協働による三重の『気象力』向上プロジェクト	三重県

三重大学リサーチセンター

卓越型リサーチセンター

平成31年4月1日現在

番号	センターの名称	代表者名		
1	三重大学次世代型電池開発センター	工学研究科	教授	今西 誠之
2	三重大学人間共生ロボティクス・メカトロニクスリサーチセンター	工学研究科	教授	池浦 良淳
3	三重大学特異構造の結晶科学リサーチセンター	地域イノベーション学研究科	教授	三宅 秀人
4	三重大学次世代型VLPワクチン研究開発センター	医学系研究科	教授	野阪 哲哉
5	三重大学次世代創薬ゼブラフィッシュスクリーニングセンター	医学系研究科	講師	島田 康人
6	三重大学コーディネイト育種基盤創生リサーチセンター	生物資源学研究科	准教授	諏訪部圭太

若手リサーチセンター

平成31年4月1日現在

番号	センターの名称	代表者名		
1	三重大学モーションコントロールリサーチセンター	工学研究科	助教	矢代 大祐
2	三重大学新たな需要を喚起する循環型農業リサーチセンター	生物資源学研究科	講師	坂井 勝

リサーチセンター

平成31年4月1日現在

番号	センターの名称	代表者名		
1	三重大学疾患ゲノム研究センター	地域イノベーション推進機構	教授	山田 芳司
2	三重大学環境エネルギー工学研究センター	工学研究科	教授	廣田 真史
3	三重大学地域ECOシステム研究センター	人文学部	教授	朴 恵淑
4	三重大学メディカルゼブラフィッシュ研究センター	医学系研究科	教授	丸山 一男
5	三重大学脳解析センター	医学系研究科	教授	成田 正明
6	三重大学マトリックスバイオロジー研究センター	医学系研究科	准教授	今中 恭子
7	三重大学ソフトマターの化学リサーチセンター	工学研究科	教授	鳥飼 直也
8	三重大学次世代ICTリサーチセンター	工学研究科	教授	成瀬 央
9	三重大学バイオエンジニアリング国際教育研究センター	医学系研究科	教授	島岡 要
10	三重大学環境低負荷プロセスリサーチセンター	工学研究科	教授	金子 聡
11	三重大学建築環境技術リサーチセンター	工学研究科	教授	永井 久也
12	三重大学複合的がん免疫療法センター	医学系研究科	准教授	宮原 慶裕
13	三重大学難病研究センター	医学系研究科	教授	ガバザ エステバン
14	三重大学海藻バイオリファイナー研究センター	生物資源学研究科	准教授	柴田 敏行
15	三重大学先天性心疾患・川崎病センター	医学部附属病院	准教授	三谷 義英
16	三重大学スマートセルイノベーション研究センター	生物資源学研究科	教授	田丸 浩

部局等配置図



〒514-8507
三重大学
 津市栗真町屋町1577
 TEL059-232-1211(代)

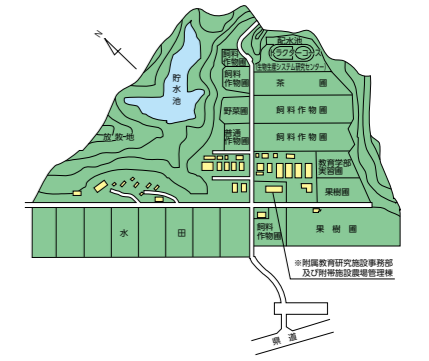
大学院医学系研究科・医学部
医学部附属病院
 津市江戸橋2丁目174
 TEL059-232-1111(代)

附属学校配置図



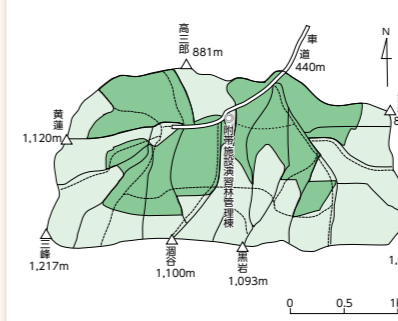
〒514-0062
 幼稚園 津市観音寺町523 TEL059-227-1711
 小学校 津市観音寺町359 TEL059-227-1295
 中学校 津市観音寺町471 TEL059-226-5281
 特別支援学校 津市観音寺町484 TEL059-226-5193

附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設農場配置図



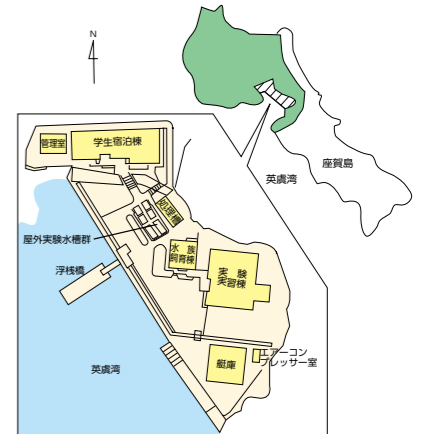
〒514-2221 津市高野尾町2072-2
 TEL059-230-0044

附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設演習林配置図



〒515-3532 津市美杉町川上2735
 TEL059-274-0135

附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設水産実験所配置図



〒517-0703 志摩市志摩町和具 4190-172
 TEL0599-85-4604

附属練習船勢水丸実習船基地

〒515-0001 松阪市大町1819-18
 TEL 0598-51-0710
 勢水丸 TEL(松阪港) 0598-50-1066
 (自動船舶) 090-3022-8767
 (インマルサット) 001-010-870-764623655

位置図

三重県内



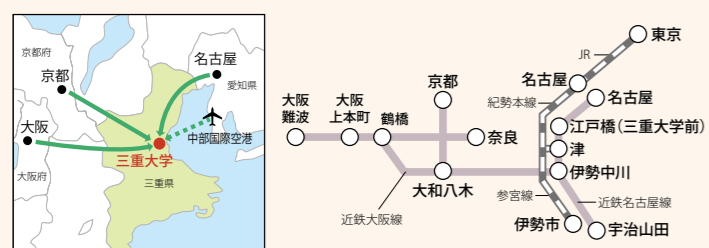
津市内



部局等所在地

部局等		所在地	電話番号		
事務局		〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)		
教養教育院					
附属図書館					
地域イノベーション推進機構					
産学官連携リスクマネジメント室					
知的財産統括室					
地域圏防災・減災研究センター					
先端科学研究支援センター					
植物機能ゲノミクス部門 (遺伝子実験施設)					
動物機能ゲノミクス部門 (動物実験施設)				〒514-8507 津市江戸橋2-174	059-232-1111 (代)
ヒト機能ゲノミクス部門		〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)		
バイオインフォマティクス部門		〒514-8507 津市江戸橋2-174	059-232-1111 (代)		
電子顕微鏡部門 (電子顕微鏡施設)					
放射線科学・安全管理学部門 (アイソトープ)		〒514-8507 津市江戸橋2-174	059-232-1111 (代)		
オープンイノベーション施設		〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)		
機器分析部門、地域研究支援部門					
卓越型研究施設					
キャンパス・インキュベータ		〒518-0131 伊賀市ゆめが丘1-3-3 産学官連携地域産業創造センター「ゆめテクノ伊賀」内	0595-41-1071 (代)		
地域拠点サテライト	伊賀サテライト			伊賀サテライト	伊賀サテライト
	伊賀サテライト			伊賀サテライト	伊賀サテライト
東紀州サテライト	東紀州サテライト			東紀州サテライト	東紀州サテライト
	東紀州サテライト			東紀州サテライト	東紀州サテライト
伊勢志摩サテライト	伊勢志摩サテライト	伊勢志摩サテライト	伊勢志摩サテライト		
北勢サテライト	北勢サテライト	北勢サテライト	北勢サテライト		
地域創生戦略企画室		〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)		
国際交流センター					
総合情報処理センター					
地域人材教育開発機構					
学生総合支援センター					
国際環境教育研究センター					
アドミッションセンター					
保健管理センター					
人文学部					
教育学部					
附属幼稚園	〒514-0062 津市観音寺町523	059-227-1711			
附属小学校	〒514-0062 津市観音寺町359	059-227-1295			
附属中学校	〒514-0062 津市観音寺町471	059-226-5281			
附属特別支援学校	〒514-0062 津市観音寺町484	059-226-5193			
医学部	〒514-8507 津市江戸橋2-174	059-232-1111 (代)			
附属病院	〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)			
工学部					
生物資源学部					
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター	〒514-2221 津市高野尾町2072-2	059-230-0044			
附属施設農場	〒515-3532 津市美杉町川上2735	059-274-0135			
附属施設演習林					
附属施設水産実験所			〒517-0703 志摩市志摩町和具4190-172	0599-85-4604	
附属練習船勢水丸	松阪港 自動船舶電話 インマルサット電話	0598-50-1066			
		090-3022-8767			
実習船基地	〒515-0001 松阪市大口町1819-18	0598-51-0710			
地域イノベーション学研究所	〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)			

本学への交通案内



- 1. 津駅東口バスのりば「4番」から三重交通バスで、「白塚駅」(06系統)、「千里駅」(40系統)、「三重病院」(51系統)、「棕本」(52系統)、「豊が丘」(52系統)、「サイエンスシティ」(52系統)、「三行」(53系統)、「高田高校前」(56系統)行きで、「三重大学前」下車。(附属病院、医学部、工学部へは「大学病院前」下車。)
- 2. 津駅からタクシーで約10分
- 近鉄江戸橋駅(三重大学前)から徒歩で約15分
- 中部国際空港(セントレア)から津エアポートラインで津なぎさまちへ40分

1. 「津なぎさまち」から三重交通バスで「津駅前」まで約15分
2. 「津なぎさまち」からタクシーで約15分

近鉄電車「急行」で

名古屋より	近鉄名古屋駅	約60分	江戶橋	徒歩
京都・大阪より	伊勢中川駅	約15分	江戶橋	約15分

近鉄電車「特急」で

名古屋より	近鉄名古屋駅	約50分	津	バス
大阪より	大阪難波駅	約90分		
京都より	京都駅	約110分		

JR「快速みえ」で

名古屋より	JR名古屋駅	約50分	江戶橋	タクシー
			江戶橋	約10分



〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
TEL : 059-232-1211 (代)

2019年6月 編集発行 / 三重大学企画総務部総務チーム広報室